



# 日本私立歯科大学協会広報

第 87 号  
令和 6 年 3 月

目 次	
〈巻頭言〉	○神奈川歯科大学
歯学教育における課外活動の位置づけ	・キャンパスセンター完成…………… 16
坂 英樹…………… 2	・神奈川歯科大学附属 歯科・健脳クリニック
〈大学のニュース〉	日本橋の紹介…………… 17
○北海道医療大学歯学部	・附属病院だより…………… 17
・ハサスディン大学（インドネシア）との	○鶴見大学歯学部
歯学部間交流協定を締結しました…………… 4	・解剖献体合同葬儀を厳修…………… 18
・イエテボリ大学（スウェーデン）短期研修を	・歯学部歯学科 4 年生 関 結香さん
行いました…………… 4	JADR/Joseph Lister Award 2023 を受賞 …… 18
・北海道ボールパーク F ビレッジ 共同まちづくり	・解剖献体精霊供養法会を厳修…………… 19
に関する基本合意を締結しました…………… 4	○松本歯科大学
・第 5 回台北医学大学・北海道医療大学	・「歯科の未来は明るい」…………… 19
歯学部間合同シンポジウムを開催しました…………… 4	・銀座 8 丁目クリニックが開院…………… 20
○岩手医科大学歯学部	・第 5 学年生 6 人が中国河北省で臨床実習…………… 21
・解剖体慰霊祭が行われました…………… 5	・第 35 回松濤祭 学生たちの笑顔あふれる …… 22
・オープンキャンパス 2023 開催 …… 5	○朝日大学歯学部
・動物慰霊祭が行われました…………… 5	・2023 年度朝日大学公開講座・朝日大学病院
・歯学部長就任挨拶 レジリエンス（Resilience）	創立 50 周年記念市民公開講座 …… 23
―変化の受容と柔軟な対応― …… 6	・災害時の歯科保健医療救護活動に関する協定を
○奥羽大学歯学部	締結…………… 24
・研究倫理・研究不正防止に関するセミナーの開催	・優秀論文賞に輝く…………… 24
…………… 6	○愛知学院大学歯学部
・オープンキャンパスの開催…………… 6	・臨床教育研究棟 落成式・内覧会を開催しました
・歯学部学生が SCRP 日本代表選抜大会入賞 …… 7	・「令和 5 年度第 61 回解剖体慰霊祭及び返骨式」が
・附属病院 休日・夜間時の自衛消防訓練…………… 7	執り行われました…………… 25
○明海大学歯学部	・歯学部・薬学部・短期大学部・歯科技工専門学校
・2023 年度海外研修報告 …… 7	の合同 IPE が行われました …… 25
・歯学部交換研修プログラム	・「歯学部ホームカミングデー」が開催されました
世界 3 개국 4 校からの研修生が来学…………… 8	…………… 26
・北京大学口腔医学院院長、前院長が客員教授に	○大阪歯科大学
就任…………… 8	・立命館大学と学術交流協定を締結しました…………… 26
・宮田理事長がシエナ大学を訪問…………… 8	・次期大阪歯科大学理事長・学長に
○東京歯科大学	川添 堯彬氏が再任されました…………… 27
・2023 年度東京歯科大学公開講座、	・橋本典也教授らの研究グループが
千代田区民公開講座開催…………… 9	新たな審美修復技術を開発しました…………… 27
・東京歯科大学「文部科学省次世代が	・歯学部 6 年生が人命救助 消防署から感謝状…
プロフェッショナル養成プラン」に	…………… 27
東京医科歯科大学の連携校として参画…………… 9	○福岡歯科大学
・【心地よさ・リラックス・安心感】を	・福岡市民の健康を歯と口から守る集いに参加…
コンセプトとした新施設 市川総合病院に	・福岡市立高等学校（4 校）と連携協定を締結 …… 28
薬物療法室が開設…………… 10	・学校法人福岡学園の役員・評議員を改選
○昭和大学歯学部	水田祥代氏を理事長に再任…………… 29
・創立 95 周年記念式典・記念会を挙行 …… 11	・学校法人福岡学園 開学記念式典を挙行 …… 29
・歯学部 4 年の杉本秀光さんが	〈事業概要〉
SCRP 日本代表選抜大会で優勝…………… 11	○理事会…………… 30
・歯学研究科の田原広子さんが国際補綴歯科学会で	○部会・委員会…………… 35
最優秀ポスター賞を受賞…………… 12	○事務局長会議…………… 36
○日本大学歯学部	○研修会…………… 37
・新学部長に飯沼利光教授が就任…………… 13	○第 14 回歯科プレスセミナー …… 38
・新病院長に佐藤秀一教授が就任…………… 13	〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉
○日本大学松戸歯学部	○第 44 回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 …… 39
・新校舎上棟式…………… 13	○第 49 回全国私立歯科大学・歯学部附属病院
・新校舎新築工事の現況…………… 14	看護部長会…………… 39
○日本歯科大学生命歯学部	○令和 5 年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院
・神楽坂上 東京短大校舎新築へ…………… 14	診療放射線技師代表者会…………… 39
・五十嵐講師受賞…………… 15	〈叙勲〉…………… 40
・望月准教授優秀賞…………… 15	〈計報〉…………… 40
・附属病院小児歯科に外来開設…………… 15	〈人事異動消息〉…………… 40
○日本歯科大学新潟生命歯学部	〈第 55 回全日本歯科学学生総合体育大会の成績表〉… 44
・学納金を大幅減額へ…………… 16	〈協会役員・部会・委員会名簿〉…………… 47
・ハノシゴトフェス 新潟県内の小中高生が参加	〈賛助会員企業紹介〉…………… 51
…………… 16	〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉… 52
	〈編集後記〉…………… 52

## 巻頭言

# 歯学教育における課外活動の位置づけ

明海大学歯学部長（2024年4月1日）  
坂 英 樹



歯学部における学生は、6年の間様々な専門的内容を享受しさらに色々な経験を経て卒業に至る。在学中は歯科医学に関する講義、実習による学修時間が大きく占めるが、高校卒業後の学生にとって人間として成長できるこの時期は、歯科医学のみならず様々な学習や経験をすることが重要であろう。その中で課外活動は、学生にとって身近であり6年間での生活に大きな影響を与える。

課外活動とは、学校において正規の教育課程の他に実施される活動のこととされている。その活動は、校内での活動のみならず学外での活動があり、学外ではアルバイト、ボランティア、習い事等が挙げられる。また一般大学とは異なり、歯学部生にとって課外活動を行うことが就職活動に影響を与えることは無く、自身での自主性をもって参加することがほとんどである。

これらの活動は、個人でなく組織に属して行われることから、人との間で決められた約束事を順守する必要が出てくる。言葉遣い、時間厳守、無断で欠席しない等、学生であるからいい加減で許されることは無く、社会として当然に

行われることを学び実行することを知らされる。このような教育は、カリキュラム上では一般教養知識として初年度教育で行うべきことだが、具体的に実施しているところは多くないように推察される。

校内における課外活動は、クラブ活動が一般的であり、広げると学生会活動、サークル活動および学園祭実行委員も含まれる。各大学には様々な種類のクラブが存在し、体育会系、文化会系に分けられる。当大学においても体育会系が25団体、文化会系が8団体存在している。

新年度となった4月に1年生が入学すると、各クラブでの新人部員の勧誘が始まる。その場では、いかにして自分たちのクラブの魅力を伝えるか、人を引き付けるための話し方や内容を考える必要が出てくる。中にはこれまで中学、高校から経験して引き続き行う人も居れば、大学に入って初めて行ってみようと思う人もいる。様々な対象者を納得させて入部に至るため創意工夫を重ねることは、正規の歯科医学教育では得られないことである。

また体育会系では、全日本歯科学学生総合体育大会（歯学体）が夏期部門、冬期部門において

開催されている。春期や秋期にも各地域による歯学部のみ、もしくは医学部や薬学部等医療系大学を合わせた大会が開催されているが、この歯学体を目標にチーム作りをしているクラブが多いことだろう。同じ志を持った全国の歯学部生が集まるこの大会は、いわば歯学部の国体のようなもので、学生にとっては非常に意義のある大会である。

私も学生時代からバレーボール部に所属し、当時はとても強いとは言えないチームながら最後の6年生でも大会へ行った記憶がある。その後も引き続き母校でも現在の大学でも練習や試合にはできるだけ参加をしている。現在の学生気質は、我々が育った昭和の頃と大きく変化していることを痛感するが、クラブ活動を通じて数々のことを学ぶ必要性は時代を経ても変わることは無い。

ここで一番大きな意義は、上下関係の存在である。大学生になると、小学校から高等学校までと異なり、日常の学生生活において他の学年と共有する行事がほぼ無いに等しい。クラブ内では先輩から後輩へと、言葉遣いから態度、色々なしきたり等が引き継がれていく。これも先ほど同様ではあるが、大学内の講義や実習で教えられるものではない。卒業後社会に出て通用する日常的・基礎的なことを教わるができる有用な機会である。体育会系なら試合に勝つこと、文化会系ならより上手にできることよりも、はるかに重要なことを学べる場であると考えている。また狭い歯科界の中で、ここで形成された人間関係が、将来大いに役立つことも現役学生に知ってもらいたい。

しかしながら2020年からの約3年はコロナ禍において、大学内での講義、実習でさえリモートの時期を経て感染対策を講じて慎重に行われていたほどであり、クラブ活動は全国的に中止となった。勿論学外での課外活動も同様である。この期間は学生生活に大きな変化を与えた。人同士のコンタクトを避けられたことが、医療人として最も大事な人とコミュニケーション

ンを取る機会を失い、先述した課外活動でしか学ぶことができない貴重な機会が失われた。

学生の趣味も多様化し、他人に干渉されない個人や一人で行う気楽さを求める学生の数も増えていると思われる。当大学においても学生数に対してクラブに所属する人数の割合が、20年前では76.7%であったが、10年前で68%、2023年度は66.6%と減少している。毎年度発行されている歯学体の総合パンフレットを見てみたが、20年前と比較して、参加者数も減少するとともに、各部門の参加大学数も増加することは無く、同じであるか減少している。

課外活動を行うことは、歯学部の学生生活において人間形成に重要な役割を持っている。歯学教育という大きな範囲の中でも、この課外活動は大きな役割を占めていることから、我々としても今後学生たちが積極的に活動できるような体制を構築する必要があると考えている。

---

#### 〈筆者の略歴〉

- 1990年3月 東京歯科大学卒業
  - 1994年7月 東京歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
  - 1994年10月 東京歯科大学研究助手・助手・講師・准教授(2013年3月迄)
  - 2013年4月 明海大学歯学部准教授(2014年9月迄)
  - 2014年10月 明海大学歯学部教授(現在に至る)
  - 2024年4月 明海大学歯学部長就任予定
-

## 大学のニュース

### ■北海道医療大学歯学部■

#### ハサヌディン大学(インドネシア) との歯学部間交流協定を締結しました

2023年7月5日、ハサヌディン大学より Irfan Sugianto 歯学部長が来学され、本学歯学部と学部間交流協定を締結しました。

ハサヌディン大学は、インドネシア共和国マカッサルにある国立大学で、インドネシア大学から独立し1956年に創立された、インドネシア東部の最高学府です。医学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部を含め、全14学部を有する総合大学です。

調印式では、最初に、オンライン参加された前歯学部長である Muhammad Ruslin 副学長より今回の提携についての祝辞をいただき、Irfan Sugianto 歯学部長、古市保志歯学部長、斎藤隆史教授、安彦善裕国際交流推進センター長がそれぞれ挨拶され、協定書の署名が行われました。

また、同校出身の本学大学院留学生も式に参加し、Ruslin 副学長、Sugianto 歯学部長に近況報告を行いました。

調印式後には、同校出身の大学院生の案内で大学施設及び歯科クリニックを視察されました。

今後、短期研修受入れ・派遣等の交流が期待されます。

北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和5年8月掲載)

#### イエテボリ大学(スウェーデン) 短期研修を行いました

2023年7月・8月にイエテボリ大学から衛生士専攻と歯学専攻の学生が来日し、それぞれ短期研修を行いました。

イエテボリ大学は、2021年QS世界大学ランキングの歯学部門で1位になるなど、世界トップクラスの教育研究機関です。

衛生士プログラムでは、歯科衛生士専門学校で台北医学大学(台湾)の短期留学生と合同で研修したのち、後半は歯科矯正学分野指導の下、データ収集や当別・札幌の学校にてアンケート調査等を実施し、スウェーデンと日本との矯正歯科治療に関する比較を行いました。

歯学プログラムでは、歯学部各研究室、歯科クリニッ

クおよび大学病院、学外の歯科医院にて研修を行いました。

研修報告会は9月15日に自国からオンラインで行われ、今回の研修での学びや本学学生・教職員との交流について報告されました。

2024年3月には、本学学生の同大学短期研修が行われるなど、益々の交流が期待されます。

北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和5年10月掲載)

#### 北海道ボールパークFビレッジ 共同まちづくりに関する基本合意を 締結しました

2023年10月10日、本学は北広島市と、株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテインメント(以下FSE)とともに、北海道ボールパークFビレッジ(所在地:北海道北広島市、以下「Fビレッジ」)エリア内を予定地とする大学キャンパス・病院新設などの計画について、三者基本合意を締結いたしました。

本基本合意に基づき、北広島市やFSEと協力して、魅力あるまちづくりの実現を共通の基本的思想とし、Fビレッジの都市公園としてのあり方や災害時における連携協力など、Fビレッジ並びにその周辺地域のまちづくりについて十分話し合いをしながら、魅力あるまちづくりの実現に向け、協力してまいります。

北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和5年10月掲載)

#### 第5回台北医学大学・北海道医療 大学歯学部間合同シンポジウムを 開催しました

2023年11月27日、本学歯学部と台北医学大学口腔医学院との第5回目となる合同シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、2018年から始まり、両校が持ち回りで毎年開催していましたが、コロナの影響により、第3回・4回はオンラインにて実施しており、今回、久々の現地開催となりました。両校からそれぞれ、2名ずつ講演を行い、活発な質疑応答がなされました。

また、シンポジウムの中で、両大学院で提携しているデュアル・ディグリー制度の協定更新式が行われ、両学部長がそれぞれ、協定書に署名致しました。

台北医学大学とは、薬学部・看護福祉学部間でも活発な交流があり、2024年3月には台北医学大学にて行われる短期研修に本学学部生を派遣しました。

今後も両大学間の更なる交流拡大が期待されます。

北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和5年12月掲載)

## ■ 岩手医科大学歯学部 ■

### 解剖体慰霊祭が行われました

6月24日(土)、大堀記念講堂において、第86回解剖体慰霊祭がしめやかに執り行われ、祖父江学長をはじめとする本学教職員と学生、ご遺族が参列しました。

慰霊祭では84霊(正常解剖59霊、病理解剖13霊、実践的手術手技向上研修12霊)の御霊に対する黙禱に続き、祖父江学長から祭詞が捧げられました。学生を代表して医学部3年北館拓也さんからは「それぞれの患者さんの「命」を尊重し、その人生に寄り添うことのできる医療人になるべく、これからの学修に邁進し、昇華していくことを誓います」と慰霊のことばが捧げられ閉式となりました。

式終了後、参列者全員による献花が行われ、ご献体された多くの方々へ深い感謝の意を表すると共にご冥福をお祈りしました。



大堀記念講堂で行われた解剖体慰霊祭  
岩手医科大学報 vol.548 (令和5年7月発行)

### オープンキャンパス 2023 開催



8月5日(土)・6日(日)の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス2023が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生や保護者など952名が参加しました。

4年ぶりとなる来校型のオープンキャンパスは、酒井副学長による大学紹介や各学部紹介・体験実習のほか、在学生とのフリートーク、教職員による進学相談、学生寮の見学等、学内スタッフ総勢286名の協力のもと、盛

りだくさんの企画が用意され好評を博しました。参加した高校生らは、大学生活に夢や希望を膨らませていた様子で、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようです。



歯学部では、初日は補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野の小林琢也教授、2日目は口腔保健育成学講座歯科矯正学分野の佐藤和朗教授から、歯学部の学位授与方針やカリキュラム・マップについて説明があり、参加した生徒は本学で学ぶ意欲を高めました。

岩手医科大学報 vol.549 (令和5年9月発行)

### 動物慰霊祭が行われました

10月2日(月)、大堀記念講堂で、第56回動物慰霊祭が執り行われ、祖父江学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生が参列しました。

式では、昨年度教育及び研究に供された動物に対する黙禱の後、祖父江学長並びに医学部3年生瀧澤友理さんから慰霊のことばが捧げられました。続いて、那谷動物研究センター長から挨拶があり、慰霊祭が終了しました。

式終了後、参列者全員が慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



慰霊のことば(医学部3年生 瀧澤さん)

岩手医科大学報 vol.550 (令和5年11月発行)

## 歯学部長就任挨拶 レジリエンス (Resilience)

### —変化の受容と柔軟な対応—



歯学部長 小林 琢也  
(補綴・インプラント学  
講座摂食嚥下・口腔リハ  
ビリテーション学分野  
教授)

この度、三浦廣行先生の後任として、2023年10月1日付で歯学部長を拝命いたしました。歯学部の創設は1965年、東北大学歯学部と並んで北日本で最初の歯科医育成機関として認可されました。1967年には歯学部附属病院開設、1983年には大学院歯学研究科が開設し、その後も着実にその内容を充実させています。今の歯学部があるのも、多くの先輩方がたゆまぬ努力で築かれてきた歴史があるからこそであります。歯学部の更なる発展を遂げることへの重責を深く認識し、身の引き締まる思いです。粉骨碎身の覚悟で職責を全うする所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

歯学部における教育目的は、豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成することです。北東北の歯科医療を守る次世代の歯科医師となる学生さんを育て上げ、良医として世に送り出すことが我々の使命です。現代の歯科医療は「口を治す歯科医療」のみならず「全身の健康に寄与する歯科医療」にパラダイムシフトが起き、国民の健康を守るチーム医療の一翼を担うことが求められています。

岩手医科大学は医療系総合大学として歯学部の他に医学部、薬学部、看護学部、医療専門学校を擁しており、学部の垣根のない教育・研究・診療の環境の下、患者さん中心の医療、チーム医療の根幹を学ぶことが出来る数少ない大学です。この環境を最大限に生かし、歯科医師として必要な知識、技能、態度を習得し、生まれる前から看取りまで患者さんと共に生きる人間性豊かな医療人を育成する大学であり続けることを目指してまいります。

そのため、歯学部の将来も見据え、教育、臨床、研究の軸をしっかりと確立し続けるために体制の整備をしています。10月1日付で歯科医療センター長に山田浩之教授（口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野）が就任、11月1日付で歯学部初の副学部長に八重柏隆教授（歯

科保存学講座歯周療法学分野）と岸光男教授（口腔医学講座予防歯科学分野）、歯科医療センター副センター長に宮本郁也特任教授（口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野）が就任しました。また、歯学部学生部長の八重柏隆教授（副学部長兼任）のもとに学生部副長として石河太知教授（微生物学講座分子微生物学分野）、教務委員長の岸光男教授（副学部長兼任）のもとに副教務委員長として武本真治教授（医療工学講座）を任命させていただきました。教育委員長の佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座歯科矯正学分野）、歯学部研究科教務委員長の石崎明教授（生化学講座細胞情報科学分野）には留任していただいております。この新しい体制のなか歯学部一丸となり、喫緊の課題である入学生の確保、留年率の低下、国家試験合格率の高値維持に取り組み、次世代の歯科医療を担う歯科医師を輩出していく所存です。

最後に、表題に記しました「レジリエンス」とは、「回復力」「復元力」「耐久力」「再起力」「弾力」などと訳される言葉です。歯科医療、歯科大学を取り巻く環境が大きく変化する中で、その変化を受容し、困難をしなやかに乗り越え回復する力を持って、歯学部の生き残りをかけた戦いに挑む所存です。皆様のご協力とご指導を切にお願い申し上げ就任のご挨拶といたします。

岩手医科大学報 vol.550 (令和5年11月発行)

## ■ 奥羽大学歯学部 ■

### 研究倫理・研究不正防止に関する セミナーの開催

研究倫理・研究不正防止に関して、奥羽大学はセミナーの開催などを通じて大学全体で取り組んでいる。その一環として、7月28日(金)17:15からオンラインセミナーを開催した。今回は、東北大学大学院文学研究科社会学分野の田代志門准教授から、研究倫理審査の実際とその問題点について詳しい解説があった。歯学部および薬学部教員と大学院生の計143名が参加した。

奥羽大学報 175号 (No.300) (令和5年10月発行)

### オープンキャンパスの開催

新型コロナウイルス感染症対策のために、2020年度からオンライン開催となっていたオープンキャンパスが、7月26日(土)と8月2日(土)に本学で現地開催された。どちらも非常に多くの高校生諸君や保護者の方々に参加され、盛況となった。

学長と学部長より本学の沿革から現在の教育方針にわたるまでの詳しい説明があった後、参加者と本学教授陣

との個人面談が行われた。面談の際は、本学の特徴や学生生活などについて様々な質問が寄せられた。実際に本学の施設を見学し、教員や在学生と話をさせていただくことで、高校生諸君と保護者の方々に本学の魅力を伝える貴重な機会となった。

奥羽大学報 175号 (No.300) (令和5年10月発行)

## 歯学部学生が SCRP 日本代表選抜大会入賞

歯学部第5学年の秋山真実さんが、8月25日(金)に東京市谷の日本歯科医師会館で開催された「日本歯科医師会主催 スチューデント・クリニシャン・リサーチプログラム 令和5年度日本代表選抜大会」において、「うま味刺激誘導性唾液に着目した喫煙マーカートンパク質の解析」という演題で発表を行い、見事第3位に入賞した。秋山さんの日頃の熱心な研究活動が実り、日本代表まであとわずかという快挙となった。



左から清浦学長、秋山さん、川合教授

奥羽大学報 175号 (No.300) (令和5年10月発行)

## 附属病院

### 休日・夜間時の自衛消防訓練

9月7日(水)、附属病院において歯科医師、看護師、



慎重に患者を搬送する病院職員

事務職員など30名が参加し休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。地震および火災発生時の通報連絡の手順、2人および4人体制による担架搬送訓練を実施した。休日・夜間はスタッフが少ない中での誘導避難を行わなければならないことから、日頃の心構えと訓練が大切である。

奥羽大学報 175号 (No.300) (令和5年10月発行)

## ■ 明海大学歯学部 ■

### 2023 年度海外研修報告

本学では、建学の精神に基づき、国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成に力を入れており、全学科の学生を対象とした奨学海外研修(研修費全額大学負担)をはじめとし、毎年多くの学生を海外研修に派遣している。学生から非常に人気の高いプログラムで、今年の夏は113人(浦安:81人、坂戸:32人)の学生が参加した。  
坂戸キャンパス

坂戸キャンパス(歯学部)からは、32人の学生が海外研修に参加した。研修期間中は派遣先大学のキャンパス



トゥルク大学での実習の様子

学科	期間	人数	派遣先
歯学科	5/2~8/11	5	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)
	5/9~8/18	5	メキシコ州立自治大学
	5/13~8/20	5	北京大学口腔医学院
	5/18~8/25	2	トゥルク大学
	5/20~8/27	5	空軍軍医入学口腔医学院
	5/21~8/30	5	アラバマ大学バーミングハム校
	5/18~8/28	5	テキサス大学サンアントニオ校



北京大学口腔医学院での研修の様子

スや病院施設の見学をし、日本との相違を知るとともに、実習に参加して現地の医療制度への理解を深めた。また、休日には現地学生たちのアテンドにより観光地を訪れ、食事や会話を通して、歯科医療の話やキャンパスライフの話をするなど、学生同士の交流を深めた。

MEIKAI NEWS LETTER 第252号 (令和5年10月発行)

## 歯学部交換研修プログラム 世界3か国4校からの研修生が来学



付属病院を見学するシエナ大学の研修生

歯学部では国際未来社会で活躍し得る歯科医師を育成するため、海外協定校との相互交流に力を入れている。中でも交換研修プログラムは大きな特色のひとつ。学生のうちから諸外国の歯科医学の現状を学ぶことができる海外研修制度を設けるとともに、研修に参加した学生が海外から研修生を迎え入れることで、継続的かつ相互的な交流が実現できるプログラムとなっている。

11月から12月にかけては中国、イタリア、メキシコの協定校4校から研修生を受け入れ、交流を図った。研修生らは付属病院の見学や本学教員による講義を受講し、日本の歯科医療の現状への理解を深めた。また、昼には教職員らによる歓迎パーティーが開催され、和やかに懇談する姿が見られた。研修期間中は、今年8月に各大学で行われた研修に参加した本学学生が世話役を務めており、学生同士の交流も活発に行われ、実りある研修となった。

国名	大学名	日程	人数
中国	空軍軍医大学	11/15~18	研修生5名、インストラクター2名
	北京大学口腔医学院	11/23~25	研修生4名、インストラクター2名
イタリア	シエナ大学	11/26~29	研修生2名、インストラクター1名
メキシコ	メキシコ州立自治大学	12/10~14	研修生10名、インストラクター2名

MEIKAI NEWS LETTER 第253号 (令和6年1月発行)

## 北京大学口腔医学院院長、前院長が 客員教授に就任

北京大学口腔医学院のDeng Xuliang 院長とGuo Chuanbin 前院長が歯学部の客員教授に就任し、11月21日、宮田淳理事長から客員教授の称号記が授与された。

本学と北京大学口腔医学院は1984年に姉妹校の朝日大学と共に学術交流協定を締結し、1994年8月から現在に至るまで約30年間にわたり歯学部における学生間相互交流を行っている。

同日、Deng 院長は共に来日中であった、同大学のCai Zhigang 副院長、Hu Wenjie 副院長、Li Guotao 国際交流室長と東京事務所を訪れ、宮田侑相談役、宮田淳理事長、中寫裕学長、申基喆副学長・歯学部長らと会談。両大学のこれまでの歴史を振り返り、宮田相談役および宮田理事長からは長年にわたって継続する学生間相互交流についての感謝の意が述べられた。

明海大学は北京大学口腔医学院との更なる友好発展を期待し、日中両国の将来へ続く歯科医学領域の発展に寄与していく。



宮田相談役と固い握手を交わすDeng 院長(中央)

MEIKAI NEWS LETTER 第253号 (令和6年1月発行)

## 宮田理事長がシエナ大学を訪問

歯学部学生の海外研修先の一つとして、2008年より相互派遣を行っているイタリアのシエナ大学を宮田淳理事長、内苑孝美副学長が訪問し、ロベルト・ピエトラ総長と会談しました。

昨年度まで22名の学生を派遣し、またシエナ大学歯学部より22名の学生(各々毎年2名ずつ)を受け入れてきました。宮田理事長はこれまでの学生間交流の実績を振り返り、感謝の意を述べました。これに対してピエトラ総長から、さらなる交流の促進と他学問領域への拡がりについての提案があり、宮田理事長は経済学部やホスピタリティ・ツーリズム学部におけるGMM(グロー



バル・マネジメント専攻)の取組みなどを紹介しました。

その後、マルコ・フェラーリ歯学部長、グランディーニ・シモーネ歯学部教授、ティジアナ・ドルド歯学部教授、ミレーナ・ファッタ全学国際交流推進室長らも同席し、本学からパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行いました。

1240年創立のシエナ大学は世界的に見ても最古の高等教育機関の一つです。

本学は、今後も建学の精神に立脚して、国際化を推進していきます。



ピエトラ総長(右)と宮田理事長

明海大学ホームページ(大学からのお知らせ)  
(令和5年9月掲載)



演者の門田教授



講演会場の様子



挨拶する樋口区長

東京歯科大学広報 第310号(令和5年9月発行)

## ■ 東京歯科大学 ■

### 2023年度東京歯科大学公開講座、 千代田区民公開講座開催

2023年5月20日(土)午後3時より、水道橋校舎本館(12A講義室)において、2023年度東京歯科大学公開講座・千代田区民公開講座が開催された。昨年と同様に、東京歯科大学白菊会の総会との同日開催となり、感染対策に留意した上で、白菊会会員の方々と一般の千代田区民の皆さんの、多数の参加をいただいた。

市川総合病院副院長、臨床薬学科の門田佳子教授により行われた「薬の四方山(よもやま)話」と題した講演は、専門的な内容にもかかわらず、参加者から「大変わかりやすかった」、「大変勉強になった」など、身近な問題として多くの声をいただいた。

本公開講座は、「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」(令和5年1月20日付けで締結)に基づき、千代田区民公開講座として開催されており、当日は千代田区の樋口高頭区長が来場され、講演会の冒頭にご挨拶をいただいた。

### 東京歯科大学「文部科学省次世代がんプロフェッショナル養成プラン」 に東京医科歯科大学の連携校として 参画

文部科学省は、第4期がん対策推進基本計画における人材育成の強化として、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を目的とした「次世代がんプロフェッショナル養成プラン」を令和5年より開始しているが、本学も東京医科歯科大学の連携校として、本事業に参画することが決定した。歯科大学から参画するのは本学が唯一であり、東京医科歯科大学を主幹とするグループ(慶應義塾大学、国際医療福祉大学、順天堂大学、東海大学、東京薬科大学)の「次世代がん医療を担う多職種人材養成プ

ラン」に所属する。

本学の役割は、がん医療の現場で口腔の健康推進に主導的な役割を果たすことのできる人材の育成であり、「口腔がん治療専門医養成コース」、「顎顔面補綴専門医養成コース」、「支持療法専門医養成コース/口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーション・栄養療法分野」の3つの大学院博士課程を設置し、令和6年度より開講する。

さらにグループでの大学間連携として口腔ケア・口腔がん共通インテンシブコースを立ち上げ、他職種と協働して研修を行う場を提供する。

東京歯科大学広報 第310号（令和5年9月発行）

## 【心地よさ・リラックス・安心感】をコンセプトとした新施設 市川総合病院に薬物療法室が開設

2023年9月19日(火)、市川総合病院歯科・口腔外科外来跡地の外来2階中央エリアに、新たに薬物療法室が開設された。「心地よさ」「リラックス」「安心感」をコンセプトに、患者さんに快適に過ごしてもらうための心遣いが随所に散りばめられ、患者さんが安心して前向きな気持ちで治療を受けられる施設となっている。

治療ブースは、チェア17、ベッド1の合計18あり、薬物療法を受ける患者さんが座る治療用リクライニングチェアは、レモンイエロー、ベージュ、ライトブラウンのやわらかな3色を使用し、それらをランダムに配置している。また、ブース間のパーティションと、カーテンの素材と配色に工夫を凝らし、壁紙にはティファニーブルーと天井にトキ色をアクセントで配色し、施設全体のカラーコーディネートがなされている。また、薬剤師が抗がん薬などの薬剤を正確に調剤するミキシングルームが薬物療法室に直結して併設されており、治療薬剤の待ち時間を短くしてすみやかに患者さんに投与できるような体制を整えている。

国から地域がん診療連携拠点病院に指定されている市川総合病院は、手術、薬物療法（抗がん薬治療）、放射線治療というがんの3大治療を提供している。近年、薬物療法は著しく進歩し、がん治療における比重が高まる中で、市川総合病院でも薬物療法を受ける患者さんが年々増加している。薬物療法室での治療実績を見ると、2020年、2021年には新型コロナ禍の影響がありやや減少していたが、2022年には年間3,566件とそれまでの最高件数を記録した。また、本学では日本で唯一の口腔がんセンターを市川総合病院に有し、口腔がんの治療件数は国内有数であり、口腔がん患者に対する薬物療法件数は毎月40件前後に達している。このような現状から、薬物療法の治療環境の拡充・整備が課題となっていた。

そこで今年度、薬物療法科が新設され、薬物療法科教授として和田徳昭先生が就任された。同科にはがん薬物療法専門医、外来がん治療専門薬剤師、がん化学療法看護認定看護師などの専門資格を有する医師、薬剤師、看護師が所属している。今回新たに薬物療法室を開設したことで、医科各診療科および口腔がんセンターのがん患者さんに、これまで以上に安心して安全な薬物療法を受けていただける充実した人員と体制、および快適な設備と環境を整備することができた。その結果、薬物療法治療件数はさらに増加し、早くも11月までで4,164件とはじめて4,000件を大きく超え、年間4,600件程度と見込まれている。市川総合病院では、これからも質の高いがんの集学的治療\*を実施していく。

\* 集学的治療：手術、薬物療法、放射線治療などを組み合わせ、より高い効果を目指す治療



開設祝賀セレモニーテープカット



薬物療法室



ミキシング室

東京歯科大学広報 第311号（令和5年12月発行）

## ■ 昭和大学歯学部 ■

### 創立 95 周年記念式典・記念会を挙

11月15日、上條記念館にて創立95周年記念式典・記念会を執り行い、本学職員・関係者あわせて約580名が出席しました。

記念式典では、緞帳披露、昭和大学管弦楽団による演奏、小口勝司理事長の式辞、久光正学長の挨拶の後、小口理事長が「創立95周年からつながる創立100周年に向けて」と題した記念講演を行いました。

小口理事長は「創立90周年に、創立100周年に向けてどのような事業を進めるべきかとの検討があり、創立95周年の際にそれを明確にしようと検討を進め、2040年までの中長期計画を立てた。現在の日本においては少子高齢化の問題があるが、次の時代を先読みし、さらに質の高い教育と医療を提供する必要がある。創立100周年は始まりであり、新しい時代に向けた新しい大学を創っていく。建学の精神を基に更に昭和大学を発展させていきたい」と述べました。

講演後、上條メモリアル合唱団と昭和大学グリーンクラブにより「いざ起て戦人よ」「大地讃頌」が合唱され、出席者全員による校歌斉唱の後、閉式となりました。

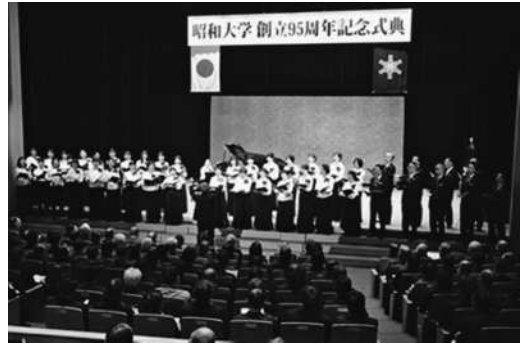
その後、会場を地下1階の富士桜に移し、創立95周年記念会が開催されました。祝宴では昭和大学 Medical All Stars Jazz Orchestra による演奏、上條メモリアル合唱団による「Believe」「昭和大学応援歌」の合唱、昭和大学応援指導部による演舞が披露されました。



挨拶：久光正学長



記念講演：小口勝司理事長



上條メモリアル合唱団による合唱



応援指導部による演舞

昭和大学は創立100周年に向け、全職員一丸となって前進してまいります。

SHOWA UNIVERSITY NEWS (昭和大学新聞) 第617号  
(令和6年1月発行)

### 歯学部4年の杉木秀光さんが SCRP 日本代表選抜大会で優勝

歯学部4年の杉木秀光さんが令和5年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRP) 日本代表選抜大会 (8月25日：歯科医師会館) で優勝しました。SCRPは、歯科学学生が自らの研究テーマについて英語でのプレゼンテーションを競う大会で、今年度は17の歯科大学 (歯学部) が参加し、4大会ぶりに対面での発表・審査が行われました。杉木さんは研究テーマ「Analysis of stimulatory effect of tacrolimus on bone repair in medaka fish and mouse (メダカとマウスにおけるタクロリムスの骨修復促進作用の解析)」で英語によるプレゼンテーション・質疑応答を行い、その内容が高く評価されました。

杉木さんは、3月に米国ルイジアナ州ニューオーリンズ市で開催されるAADOCR/SCADA大会に招待され、日本代表として発表するとともに、世界各国の代表学生、歯学研究者等と交流を図る予定です。

#### 【杉木秀光さんのコメント】

私は、マルチドクタープログラム歯学研究科コース科

目等履修生として歯科薬理学分野に所属し、免疫抑制薬タクロリムスが骨の恒常性維持に及ぼす影響について解析してきました。タイムラプスイメージング解析では5日間交代で4時間毎に画像撮影を行い、生体内での個々の細胞の挙動を解析しました。その結果、タクロリムスに骨折回復や骨欠損修復を促進する作用があることを見出し、本大会で発表しました。

発表前日まで歯学部の前定期試験があったため、試験勉強と発表練習を両立させるのはこれまでになく大変でした。当日は、審査員の前で行った計3回の発表のうち、最初の発表では緊張でやや慌ててしまいましたが、それで不安が吹っ切れ、残り2回の発表では落ち着いて発表することができました。他大学の代表者は私よりもはるかに流暢な英語で研究成果を発表されていたので、優勝者として私の名前が読み上げられた時は、今までの人生で一番驚きました。3月の米国AADOCR/SCADA大会では、世界の方々に私の研究について一生懸命伝えたいと思います。



優勝者へのトロフィー授与  
(写真左から)杉木秀光さん、研究指導者の畔津佑季助教



トロフィー授与後、参加者全員の前で研究成果を英語でプレゼンテーションしている様子

SHOWA UNIVERSITY NEWS (昭和大新聞) 第617号  
(令和6年1月発行)

## 歯学研究科の田原広子さんが 国際補綴歯科学会で 最優秀ポスター賞を受賞

歯学研究科3年の田原広子さん(歯学研究科歯科補綴学専攻)が、国際補綴歯科学会(8月30日~9月2日: International College of Prosthodontics London Symposium—Satellite Meeting)において、演題名『Effect of CPC single agent mouthwash on the bacterial flora in denture plaques (CPC単剤洗口剤がデンチャープラーク内細菌叢に与える影響)』を発表し、ポスター部門で最優秀基礎科学研究賞(First Place in the Poster Competition—Basic Science Research)を受賞しました。

同賞は、厳正なる審査の結果、47審査対象演題中1演題(受賞率2.13%)に対して授与されました。

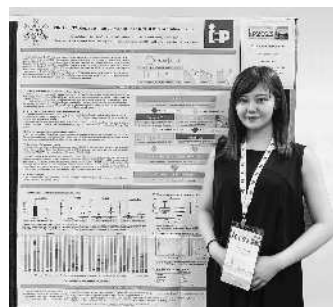
### 【田原広子さんのコメント】

このたびはInternational College of Prosthodonticsのポスターコンペティションにおいて最優秀ポスター賞(Best Basic Science Research)を賜り、大変光栄に存じます。

本研究では上顎全部床義歯装着患者を対象に、殺菌作用のある塩化セチルピリジウム(CPC)の単剤洗口液の使用によるデンチャープラーク付着抑制効果と細菌叢に及ぼす影響について検証し、その産生細菌であるStreptococcus属が有意に減少することが判明しました。

現在の日本において、死因の上位にある誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎等の疾患予防を行うことは重要です。また超高齢社会に伴いフレイルや認知症は大きな問題点の一つとして挙げられます。洗口剤という日常に取り入れやすいものから、口腔への意識を高め生活習慣を身につけることは、全身への健康改善・増進にも繋がるのではないのでしょうか。

本研究が患者様の健康に少しでも貢献できるよう、引き続き精進してまいります。



発表ポスターと田原広子さん

SHOWA UNIVERSITY NEWS (昭和大新聞) 第617号  
(令和6年1月発行)

## ■ 日本大学歯学部 ■

### 新学部長に飯沼利光教授が就任



歯学部長 飯沼 利光

この度、9月1日付けで本田和也学部長の後任として歯学部長を拝命いたしました。皆様にはこれからも変わらぬご指導ならびに、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

皆様もご存じのように、日本大学は130年の歴史を有する日本を代表する教育機関です。そして、日本大学歯学部も同様に100年以上の伝統を誇る日本を代表する歯科医師養成機関です。日本大学は、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、そして「自ら道をひらく」の「自主創造」を教育理念としており、歯学部においてもこの日本大学マインドを有する歯科医師の輩出を目指しています。

今から100年以上も前に、歯学部の前身である東洋歯科医学校の創設者である佐藤運雄先生は「歯学を口腔に止めず、常に全身と関連づけて学ぶ」という医学的歯学を提唱されました。当時においてはかなり斬新的な考え方であったかもしれませんが、しかし現代においては、日本の歯科教育の基本となっています。この姿勢こそがまさに、「自ら道をひらく」の実践であったように思います。今、歯科界は厳しい時代と言われています。しかし口腔を通じて健康に資するその役割は、今後ますます重要となることに疑いの余地はありません。私たち日本大学歯学部はその先駆者として「自主創造」の理念のもと、これからの歯科界を牽引して行く若き歯科医師の養成に全力を注いでまいります。

皆さん、日本大学歯学部の伝統と誇りを大切にともに頑張ってください。 (教授 歯科補綴学第I講座)

桜歯ニュース 第220号 (令和5年10月発行)

### 新病院長に佐藤秀一教授が就任



病院長 佐藤 秀一

伝統ある日本大学歯学部附属歯科病院長を11月1日より拝命しました歯周病科の佐藤秀一です。この重責を身が引き締まる思いでお引き受けいたしました。本病院はコロナ禍の4年間、クラスターを1度も発生させることなく地域医療に貢献しながら、教育病院として歯科医師育成に尽力してきました。新型コロナ感染症もようやく5類に移行し、以前の日常が戻りつつあります。また、月日が経つのは早いもので2018年10月に新歯科病院が開院して早くも5年の歳月が経過しました。いよいよ、これから新歯科病院の真骨頂を示す時と考えています。

本病院は御茶の水で単独の歯科病院として他の病院と差別化を図り、都市型の歯科病院としての特色を示すことが重要と考えています。幸い、1日平均700名以上の患者さんが来院されています。治療を受けられたすべての患者さんに高水準の医療を提供し、ホスピタリティを充実させていきます。

御茶ノ水駅の再開発により今後周辺の利便性がさらに向上してきています。日本大学歯学部附属歯科病院は、次の未来に向かって、すでに歩を進めています。御茶の水で唯一無二の歯科病院となるよう患者さんが満足される治療の提供、優秀な歯科医師の育成に邁進していきたいと思っております。さらなるご支援をよろしくお願いいたします。

(教授 歯科保存学第III講座)

桜歯ニュース 第221号 (令和6年1月発行)

## ■ 日本大学松戸歯学部 ■

### 新校舎上棟式

6月21日(水)、新校舎上棟式を挙行了しました。「上棟式」とは「棟上げ式」「建前」ともいわれ、骨組みなどの基本構造が完成した後に、建物の一部となる「棟」を取り付け、上棟までの作業が無事に完了したことを祝う行事です。

式には、建築会社及び本学部教職員が参列しました。

写真は、参列者の氏名が記入された「棟」を、福本学部長、谷事務局長による金鉾・銀鉾打ちが行われた後、吊り上げを行う「上棟之儀」の様子です。

新校舎新築工事プロジェクトテーマ「口腔の専門医」を育てるコミュニケーションキャンパスのもと新校舎新築工事は順調に進行し、2024年4月には新校舎の運用を開始する予定です。



金鉾打ちの様子



上棟之儀

松戸歯ニュース 第184号 (令和5年9月発行)

## 新校舎新築工事の現況

2024(令和6)年4月からの運用を目指して新校舎新築工事が進行しています。

写真のとおり新校舎に設置されていた足場は無くなり、外観が見えるようになりました。また、緑を活かす庭園やキャンパスの顔を兼ねた守衛所を設置する場所を確保するために、バスロータリーの改修工事にも着手しています。



工事の様子(バスロータリー)



工事の様子(校舎)

松戸歯ニュース 第185号 (令和6年1月発行)

## ■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

### 神楽坂上 東京短大校舎新築へ



鍬入れをおこなう中原泉法人理事長

### 5階建 来年10月竣工

このたび本学は、東京短期大学校舎を新宿区神楽坂上に新築し、移転する。工事は8月に着工し、1年5ヶ月の工期を経て、来年10月に竣工する予定。

東京短期大学新築の地鎮祭は、令和5年7月25日午前10時、新宿区筑土八幡町の建設予定敷地のテント内において挙行された。中原理事長はじめ本学関係者、設計監理の山下設計関係者、施工の熊谷組関係者約50名が参列した。

筑土八幡神社の神官により、神事が催された。祝詞奏上につづく斎鍬の儀では中原理事長が鍬を入れ、斎鎌は藤田衛山下設計副社長、斎鋤は櫻野泰則熊谷組社長が行なった。

つづいて中原理事長、藤井一維学長、小林隆太郎東京短大学長等が玉串を奉奠した。

神酒拝戴したあと、建築主として中原理事長が、「校舎としては4度目の移転になるが、竣工の暁には、ここがわが国の歯科技工士・歯科衛生士の殿堂となりメッカとなるだろう」と挨拶した。

猛暑の下、正午に閉式した。

東京短期大学は、早稲田通りに面した校舎が老朽化しつつあるため、2年前より神楽坂上の校地に校舎を新築し、移転する計画をすすめてきた。

新校舎は、神楽坂上を右に曲った筑土神社手前の大久保通りに面した敷地約 1376m<sup>2</sup> (約 417 坪) に、鉄筋コンクリート造り 5 階 (延床面積約 3700m<sup>2</sup>・約 1121 坪) が建つ。

建物は、教育施設として機能性と快適性を有し、施設は現校舎より 30% 程度拡充する。各階には、歯科技工士教室・実習室、歯科衛生士教室・実習室はじめ、多目的室 (講堂)、学生自習室、ラウンジ等が整備される。

1 階ホール前には、金属焼付ポーセレンの開発で知られる桑田正博先生より寄贈された記念品を展示する『桑田正博記念室』が開館する。

新校舎は、飯田橋駅西口より神楽坂通りを徒歩 10 分、同東口からは大久保通りを徒歩 5 分の恵まれた立地にある。

この新築・移転により本学富士見のキャンパスは、本館、駅前の附属病院、神楽坂上の東京短大の 3ヶ所となる。

現在、全国に歯科技工士学校 48 校、歯科衛生士学校 168 校あるが、近年、前者が減少し後者が増加し、歯科技工士と歯科衛生士の養成にアンバランスを生じ、その増減が危惧されている。

その時期にあって本学は、歯科医師の両翼である歯科技工士と歯科衛生士の重要性から、新しい充実した教育施設をつくるべく、このたびの新築に着手したものの。



東京短大新校舎の外観予想図



日本歯科大学新聞 第 686 号 (令和 5 年 10 月発行)

## 五十嵐講師受賞

生命歯学部歯周病学講座の五十嵐 (武内) 寛子講師は、昨年 11 月 10 日の日本歯科保存学会 2022 年度秋季学術大会 (第 157 回) において、ポスター発表「外傷により歯の動揺を有する重度慢性歯周炎に対し歯周組織再生療法を行った一症例」で、日本歯科保存学会 2022 年度専門医優秀症例発表賞を受賞した。

日本歯科大学新聞 第 686 号 (令和 5 年 10 月発行)

## 望月准教授優秀賞

生命歯科学講座の望月真衣准教授は、8 月 27 日の第 41 回日本ヒト細胞学会学術集会において、Young Investigator Award 優秀賞に選ばれた。演題は『再生医療に最適なヒト間葉系幹細胞はどれか? ~新規細胞シートによる硬組織再生法の開発~』。

日本歯科大学新聞 第 686 号 (令和 5 年 10 月発行)

## 附属病院小児歯科に外来開設

歯の細胞バンク認定医は 1271 名に

2023 年 10 月 1 日付、附属病院 (東京) 小児歯科に「歯の細胞バンク外来」が開設された。17 年 9 月に新潟病院、同年 10 月に附属病院口腔外科に続き、本学 3 番目の歯の細胞バンクの専門外来となる。同外来は、白瀬敏臣准教授 (外来長、77 回卒)、梅津糸由子講師 (79 回卒)、名生幸恵講師 (小児歯科学講座・小児歯科併任、87 回卒) の認定医 3 名に加えて、川邊靖子、由利啓子、今村安芸子歯科衛生士のコーディネーター 3 名が務める。

最近の歯の細胞バンク外来の活動は、患者さんや医療機関からの問い合わせやバンクの抜歯を希望する小児患者さんの来院・紹介が増加している。小児患者さんの場合、患者さん本人だけでなく保護者への対応と信頼関係の構築が不可欠である。そのため、成人と小児の患者さん双方に対応してきた附属病院口腔外科の同外来のほかに、小児患者さんに対応する専門外来の開設が求められていた。

本年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類感染症に分類されたことを受け、歯の細胞バンク認定医講習会が 4 年ぶりに開催された。第 4 期となる第 16 回 (7 月 30 日) 第 17 回 (8 月 20 日) の講習会を通じて、認定医総数は 1271 名 (うち医師認定医は 17 名) となった。

コロナ禍が収束に向かう社会状況を受けて、患者さんの歯の細胞バンクのニーズがさらに高まることが予想される。新たに開設された附属病院小児歯科の同外来は、歯の細胞バンクを希望する小児患者さんを迎える中核と

しての役割が期待される。

(中原 貴)



歯の細胞バンク  
ホームページ  
QRコード

日本歯科大学新聞 第687号 (令和5年12月発行)

## ■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

### 学納金を大幅減額へ

新潟生命歯学部は、ローカル校として優秀な受験生の増加を期して、学納金を大幅に減額する。来年度(2024年度)より、6年間の学納金を約一千万円減額し、二千百万円とする。これは新入生(1年)から在学の6年まで一律となる。生命歯学部は、現行通り。

日本歯科大学新聞 第685号 (令和5年8月発行)

### ハノシゴトフェス

#### 新潟県内の小中高生が参加

新潟生命歯学部と新潟短期大学の共催イベント「ハノシゴトフェスティバル2023～体感しようハノセカイ～」が、7月2日に新潟キャンパスにて実施された。歯やお口に関する仕事について広く知ってもらいたいという目的で、新潟県内の小学生・中学生・高校生を対象として、67組156人という多くの方にご参加いただいた。

体験実習、医の博物館ミュージアムツアー、動画鑑賞&クイズや白衣を着て自由に撮影ができるフォトスポット、ハノセカイの道具展示など、参加者に楽しく学んでもらえるよう多くのプログラムを取り揃えた。

参加者からは「昨年に引き続き参加させていただき子供もとても喜んでいました」、「子供が歯磨きに興味をもってくれるようになったのでぜひまた開催していただきたい」、「子供にも素晴らしい体験になり将来の選択に繋がればと思います」などの感想が寄せられ、大盛況であった。

今回のイベントは、広報部会の教職員が中心となって



企画し、新潟病院歯科衛生科の歯科衛生士、新潟生命歯学研究科の大学院生および新潟短期大学歯科衛生学専攻の専攻科生の協力を得て開催に至った。

日本歯科大学新聞 第686号 (令和5年10月発行)

## ■ 神奈川歯科大学 ■

### キャンパスセンター完成

2020年4月より計画着手しました新本部棟あらためてキャンパスセンターが無事に竣工引渡しとなりました。鹿島理事長、櫻井学長、菅原局長はじめ皆様には多大なご支援、ご協力を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。あらためてキャンパスセンターの概要や特徴について簡単にご紹介いたします。

#### 〈機能的な棟、自由をうむルーフ〉

4階建の事務棟、2階建の学修棟それらを繋ぐルーフ(大屋根)の空間で構成されています。棟は職務や勉強に集中する場、ルーフの下はコミュニケーションや息抜き、そんなイメージを想起しました。キャンパスをはじめ訪れたとき、広場のような空間があったらいいのと感じました。それをルーフに託しました。リラックスしながら食事をしたとき、一人で考え事をしたとき、のびやかなルーフの下で過ごしていただけたらと思います。本部棟が解体されるとテラス/ホワイエからは桜並木、ジャガランダがのぞめます。

#### 〈三笠公園との一体化 キャンパスの、都市のホワイエ〉

最高高さ制限15mという規制を緩和するため横須賀市と協議を行い「キャンパスの地域開放」を計画において謳っています。三笠公園から見通しのきくポールフェンスや植栽帯、幅12mの正門等はその一環です。市民の方が気軽にキャンパスを訪れるような風景が期待されます。市のイベントとの連携、三笠公園と一体的に行うジャガランダフェスティバルなど色々な可能性が広がりました。

#### 〈80本の杭で建物を支える〉

本計画で最も地味ながら最も神経をすり減らした部分が基礎工事です。支持地盤が軟弱かつ一定でないため、杭長さを全て変える必要がありました。無事に全て支持地盤に到達、確実に耐震性能が確保されています。

#### 〈おだやかな光〉

照明の色温度を少し高めめの温白色で統一し、おだやかで目に優しい執務環境にしています。トイレは人感センサー式、扉を開けると自然に点灯します。もちろん照明器具はすべてLEDです。

#### 〈空調、熱負荷環境〉

居室には空冷ヒートポンプ式空調機、大空間は床吹き出し空調とした効率的な空調計画です。全熱交換器で窓



を閉鎖することなく温度変化を抑えながら新鮮な空気が室内に取り込まれます。書庫にも空調機、全熱交換器を完備、重要書類の保管も安心です。

#### 〈やわらかな建築を目指して〉

アトリエ MEME は設計テーマとして「やわらかな建築」を掲げています。人がつかうものは人間的であってほしい。そう考え構造/構成/素材など様々な次元で建築にやわらかさをつくりたいと考えています。カラーコンクリートや建物を覆うルーフも、私たちなりのその回答です。本キャンパスセンターが皆様の心の拠り所となることを願っています。

鹿島理事長が選定されたカラーコンクリートの色名はドーンピンク。ドーンとは「dawn=夜明け」を意味します。キャンパスセンターを拠点に新たな時代が始まる、そんな予感を感じています。学校法人様の益々のご発展を祈念しています。

(一級建築士事務所 (株)アトリエ MEME 主宰建築家 八木敦之)



学校法人神奈川歯科大学新聞 第48号 (令和6年1月発行)

## 神奈川歯科大学附属 歯科・健脳クリニック日本橋の紹介

歯科・健脳クリニック日本橋は、日本橋三越本店新館5階に2023年4月30日(日)に開院いたしました。医療コンセプトは“脳と口腔の健康増進”でございます。

本院の特徴は、認知機能と口腔疾患を組み合わせた医科・歯科連携の脳機能・口腔疾患医療クリニックで、西



洋医学と東洋医学を融合したオーダーメイドの医科・歯科連携による医療を提供することで、皆様方の持続可能な健康寿命のサポートを実施いたします。

本院は、構想より約8か月で開院の運びとなり、常勤歯科医師1名、非常勤歯科医師3名、常勤医師1名、看護師1名、歯科衛生士2名、技士1名(事務長兼務)の陣容でスタートしました。当初は、日本橋三越本店内の医療施設として医療環境を含め慣れない部分も多々あり、前途多難な船出となりましたが、開院より約8か月経過する中で、医療システムの構築、施設の周知や認知度向上、インバウンド患者の取り組みに努めてまいりました。

クリニックのキーワードは、「健脳」です。本院の目的は、健脳を得る為に医科と歯科が診療科の垣根を越え、「健脳科」として専制的予防介入を図ることにあります。歯科・健脳クリニック日本橋は、医科診療、歯科診療、どちらが先でも目指す方向は同じ「健脳」です。これは神奈川歯科大学附属歯科・健脳クリニック日本橋が仕掛ける施策で、先進的な医科・歯科連携による認知症早期発見、特にアルツハイマー病予防医療を提供いたします。

また、歯科では、歯周治療、インプラント治療、補綴治療、マイクロエンド治療を各専門医が専門性の高いレベルで行います。口腔機能の回復だけでなく、医科・歯科連携のもと歯周病の治療を専門的に実施し、各専門医によるオーダーメイドの歯科治療を提供いたします。

今後、関係各位の教職員皆様、同窓会の先生方のご支援ご指導を賜りながら、学校法人神奈川歯科大学の新コンセプトの医療施設として、スタッフ一同努力邁進する所存でございます。

(神奈川歯科大学附属歯科・健脳クリニック日本橋 院長 児玉利朗)

【歯科・健脳クリニック日本橋ホームページ】

<https://oral-brain.com/>



学校法人神奈川歯科大学新聞 第48号 (令和6年1月発行)

## 附属病院だより



## 第28回指導歯科医講習会

2023年11月11日(土)、12日(日)の2日間にわたり、神奈川歯科大学附属病院7階フロアにおいて、第28回歯科医師臨床研修指導歯科医講習会(神奈川歯科大学FDワークショップ)が開催されました。昨年度に引き続き今年度も「対面」にて開催することができ、27名の歯科医師が受講いたしました。

講習会は7名を1グループとしたワークショップ形式で行われ、歯科医師臨床研修制度について等の講演を3題、「他己紹介」や「コンセンサスゲーム」を交えながら7つのセッションを2日間で約16時間受講しました。グループは和やかなグループ、終始笑い声の絶えないグループ、集中しすぎて制限時間ギリギリまで頑張るグループなど、それぞれの個性を発揮して活発に意見交換が行われ、全体討議においても積極的な意見交換が繰り返されました。

講習会に参加した歯科医師からは、「さまざまな環境の歯科医師の先生方と関わることができてとても新鮮だった」「有意義で楽しく参加できた」などのほか、「学び」や「気づき」が多かったといった感想をたくさんいただきました。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第48号(令和6年1月発行)

## ■ 鶴見大学歯学部 ■

### 解剖献体合同葬儀を厳修

7月26日(水)15時から、2号館解剖実習室において、令和5年度歯学部解剖献体合同葬儀が大本山總持寺副監院 勝田浩之老師により厳修された。

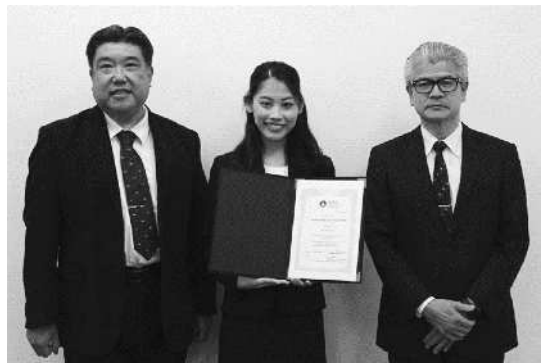


法要の様子

鶴見大学報 第440号(令和5年10月発行)

### 歯学部歯学科4年生 関 結香さん JADR/Joseph Lister Award 2023 を受賞

第71回国際歯科研究学会日本部会(JADR)学術大会が令和5年11月25日(土)~26日(日)に東北大学医学部・開設百周年記念ホール(星陵オーデトリウム)にて開催され、歯学部歯学科4年生の関 結香さんが令和5年度のJADR/Joseph Lister Awardを受賞いたしました。本賞は歯学の発展に寄与する若手研究者の育成を目的とし、歯学部学生で優秀な研究を行った者に与えられる賞です。関さんは令和3年より分子生化学講座でのアドバンスゼミに参加し、ポーンブロスが与える骨粗鬆症予防効果についての研究を行ってきました。今回ポーンブロスに含まれるヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸には骨粗鬆症の進行を遅らせる効能を有する可能性



左から山越先生、関さん、大久保先生

を発見し、骨粗鬆症予防に寄与することが称えられての受賞となりました。

(分子生化学講座・教授 山越 康雄 記)

鶴見大学報 第 441 号 (令和 6 年 1 月発行)

## 解剖献体精霊供養法会を厳修

令和 5 年 10 月 4 日(水)午後 1 時 30 分から大本山總持寺大祖堂において、大本山總持寺監院渡辺啓司老師ご導師のもと、令和 5 年度歯学部解剖献体精霊供養法会が厳修された。

### 次第

開式の辞  
前鼓鉦三通  
献香献花 三婦依の歌  
ご供養の言葉 学長  
拈香法語  
読経 参列者全員焼香  
回向  
後鼓鉦三通  
大導師御垂示  
感謝の言葉 代表学生  
大導師退堂  
閉式の辞



鶴見大学報 第 441 号 (令和 6 年 1 月発行)

## ■ 松本歯科大学 ■

### 「歯科の未来は明るい」

松本歯科大学校友会長野県支部第 40 回総会  
日本歯科医師会長・高橋英登先生が講演

校友会長野県支部の第 40 回総会が 6 月 3 日(土)、松本市のホテル・ブエナビスタで開催され、公益社団法人日本歯科医師会の次期会長に内定した日本歯科医師連盟会長で本学客員教授の高橋英登先生が「歯科の未来は明



歯科医師会次期会長として歯科界を展望する高橋先生

るい」と題して講演した。歯科界の現状と将来展望を熱く語り、次期会長として取り組むべき課題について全力を傾注する姿勢を表明した。高橋先生は 6 月 15 日の日本歯科医師会定時代議員会で信任され、16 日から高橋執行部がスタート。歯科界再興に向けての舵取りに期待が集まっている。

高橋先生は冒頭で「私は開業医として歯科医療が大好きで、心底“歯科”を愛する者の一人です。しかし今、歯科は疲弊しています。歯科を豊かにするのが私の命題で、豊かであれば若者は歯科医師を目指します」と語り、歯科医師会長として現在の暗闇のような閉塞感を打破していく決意を示した。

### 理にかなっていない歯科医師削減策に終止符を

歯科医師国家試験が資格試験ではなく選抜試験になっている現状にも触れた。以前 3000 人を超えていた合格者は現在では約 2000 人に減った。かつては 100% に限りなく近かった合格率が今年是全国平均で 63.5%。その結果、国試浪人予備校が大繁盛する一方、歯学部受験者数は激減している。若人が参入しなくなった歯科界がこのままでは衰退の一途をたどるのは自明の理である。

高橋先生は、歯科医師削減を打ち出して国家試験を狭き門にしてしまった日本歯科医師会の方針の過ちを指摘し、「10 年後には現役引退者が増え歯科医師の数は間違いなく足りなくなります。6 年間の厳しい歯学教育を受けた卒業生が歯科医師数の削減=合格者縮小という誤った施策の犠牲となっている。このままだと歯科界全体がシュリンクしてしまう」と語り、歯科医師の増加に向けて舵を切ることを明らかにされた。

### 歯科診療報酬の正当な評価に取り組む

歯科医師の献身的な努力で維持されている現行の歯科保険医療についても課題に挙げた。総義歯の自己負担額が 2370 円、精密で高度な技術と時間を必要とする根管治療が 280 円という対価は諸外国と比べて極端に低い。やみくもに保険点数をあげて患者の窓口負担を増やすのではなく、このような非常識ともいえる低医療費の現実を国民に周知し、「公的医療保険における歯科医療費の改定に努力していきたい」と、意欲を示した。

### 歯科衛生士不足の解消は喫緊の課題

また、政府の骨太の方針である「国民皆歯科健診」の実現が間近であり、老人多歯残存時代の今、歯科需要が増し、歯科医師、歯科衛生士が担う役割の重要性にも言及した。しかし、歯科衛生士が足りない。「松本歯科大学が衛生学院の募集定員増に踏み切ったのは時代の求めにかなっていない」と高く評価し、歯科衛生士確保の具体策を挙げた。

日本には歯科衛生士が27万6千人いるとされているが、実働は14万1千人。やる気も能力もあるが、しばらく職場から離れてスキルに不安をかかえる歯科衛生士にはスキルアップ講座の開催やフレックスタイム制の導入などで後押しする。同時に、歯科衛生士の業務範囲の拡大などを推進し、歯科医師の負担を軽減していく。

### 歯科医師が頑張れば無駄な医療費は削減可能

「歯科医師が過剰だから歯科界が衰退しているのではなく、潜在患者や潜在疾病への対応や歯科治療の重要性に関する国民への周知が十分に行われていないのが原因」と高橋先生は主張した。

幸いなことに、歯科医療機関で良質な診療・治療を受ければ、口腔の健康にとどまらず、全身の健康、すなわち健康寿命の延伸につながることで、国民に浸透しつつある。医科臨床の現場からも、入院患者への口腔ケアによって、予後が良好で、入院日数が短縮し医療費が減ることが明らかにされ、疾病予防としての歯科が果たすべき役割も大きい。「歯科医療が拡充すれば、無駄な医療費が抑制され、現行の国民皆保険の存続が可能になります。このことを国民にも行政にもアピールしていきたい」と強調した。

### AIが進化しても歯科医師は生き残る

英国オックスフォード大学の研究者によれば、いくらAI（人工知能）が進化しても、「生き残る仕事」の上位には歯科医師が位置づけられている。「口腔」という非常に鋭い感性に司られている領域は、ロボットで行うことは不可能。人間の仕事をAIが取って代わるといわれているが、歯科治療の多くは歯科医師が担うしかない。また、人間の究極の望みは、最後まで自分の口でおいしく食べて、健康で天寿を全うすること。これに大きく関与するのが歯科であり、「歯科医師は国民の生活を、そして人生を幸せにする職業。これからは、なくてはならない職業として正当な評価がなされるよう、歯科界全体で取り組んでいきたい」と抱負を述べた。

### 現場の声を聞いて歯科界を活況に導く

最後に高橋先生は、「地方の歯科医師会は、より積極的に地区の行政と組み、市民から認められる成人歯科検診や在宅診療等の公益事業を推進し、潜在患者の顕在化と、かかりつけ医の定着をはかる努力をお願いしたい」と話し、「歯科界を活況に導くために提言や助言があれ



高橋会長、矢ヶ崎理事長を囲んで記念撮影する  
長野県支部会員

ば声をあげてほしい。現場の声を聞いて舵を切るのが私の仕事です」と締めくくった。

Campus Today 第474号（令和5年7月発行）

## 銀座8丁目クリニックが開院



最新設備を備え歯科専門治療を提供する銀座8丁目クリニック

歯科大学病院の「専門技術」を東京・銀座で提供  
都市型診療モデルを学べる教育研修施設としても活用

松本歯科大学銀座8丁目クリニック（院長＝矢島安朝特任教授）が7月6日（木）、東京・銀座の高層商業施設「HULIC & NewGINZA8」内に開院した。高級感あふれる個室の診療室で、大学病院の持つ高い技術力に裏付けられた最先端の歯科医療を提供する新しいタイプの歯科クリニックとなる。都市型診療モデルを学べる大学の教育研修施設として、本学を卒業した研修歯科医の臨床研修などでも活用を図っていく。

開院初日の診療時間前、現地に矢ヶ崎 雅理事長ら関係者約20人が集まり、開院セレモニーを行った。矢ヶ崎理事長と香西敏男参与、矢島院長の3人がテープカットを行い、参列した人たちと新たな事業拠点の門出を喜び合った。その後、関係者全員で永田町の日枝神社に詣で、クリニックの発展を祈願した。

セレモニーで矢ヶ崎理事長は、「ここは生まれたばかりのクリニックだが、やがて巨人となって大学にさまざまな貢献をしてくれることを夢見ている。みんなで力を

合わせて、きちんと確実な診療をしてほしい」とあいさつした。セレモニー後の施設見学では、内閣官房参与で本学常務理事でもある飯島 勲特命教授も駆け付け、本学の取り組みに高い関心を寄せていた。



飯島特命教授(左)に院内の説明をする矢島院長(右)

松本歯科大学病院は、安全性の高いインプラント治療と各専門分野での技術向上に長年取り組んできた。その実績を生かし、新たに誕生したクリニックでは最新鋭の設備を備え、最先端の歯科専門治療を提供する。敷居の高さを感じさせることなく、歯科大学病院だからこそこの「技術」と「設備」を気軽に利用できるクリニックを基本理念とし、大学の教育研修施設としての役割も担っている。

クリニックが入るビルは、隈 研吾建築都市設計事務所がデザイン監修し、2021 年秋に完成した日本初の耐火木造のハイブリッド高層商業施設（地上 12 階）。クリニックはその 9 階で、広さ約 170 平方メートル。全 4 台のチェアをそれぞれ個室型の診療室に据え、オペ室やレントゲン室、技工室も配置した。やさしい雰囲気や受付や待合をはじめ、洗練された空間でリラックスして歯科治療が受けられる施設になっている。

歯科用ユニットは、高さの調整がフレキシブルなユニバーサルモデルのシロナ Sinus と、インプラント治療用の電動モーターおよび根管長測定機能が付いたシロナ Axano の 2 種を設置した。

院内の空気浄化と感染対策に有効な口腔外バキュームや、色再現性を徹底追求した外科用顕微鏡、迅速かつ容易に口腔内をスキャンできる光学印象スキャンなど最も最先端を揃えた。レントゲン室に導入したデンツプライシロナ X 線撮影装置はパノラマ/セファロ/CT 複合機で、メーカーのフラッグシップモデル。塩化エチレンガス滅菌器やハンドピース専用滅菌器、歯科用器具を確実に洗浄・消毒する高性能洗浄器なども最新鋭を揃えている。

インプラント治療を中心に、歯列矯正や歯内治療、歯周病治療、補綴治療、保存修復など、患者様一人一人のニーズに合わせて、安全性と確実性の高い方法で提供していく。

◇住所 = 東京都中央区銀座 8 丁目 9-7

◇電話 = 03-6264-5528

◇HP = <https://mdu-ginza.com/>

◇診療時間 = 平日の午前 10 時～午後 1 時、午後 2～6 時（クリニックホームページからも予約可）

Campus Today 第 475 号（令和 5 年 8 月発行）

## 第 5 学年生 6 人が 中国河北省で臨床実習



河北医科大学口腔医院での診療を見学する学生たち

### 河北医科大学臨床実習プログラム 4 年ぶりに実施 歯科医療の進歩や中国文化に感銘を受ける

コロナ禍の影響でしばらく途絶えていた中国河北省における臨床実習が再開された。8 月 10 日（木）から 15 日（火）の日程で、中国の河北医科大学口腔医院および口腔医院中華院区（分院）にて第 5 学年の成績優秀者を対象にした第 6 回臨床実習プログラムが実施され、簡立言君、蔡沛彤さん、白清日君、藤田蒼平君、堀越日菜子さん、三野耀執君の 6 人の学生が参加した。学生を代表して三野君が河北省における同プログラムの内容を報告する。

#### 第 5 学年 三野耀執

私は今回の海外研修が決まったとき、国を越えた先に何があるのか、どんな歯科医療が行われているのか、とても興味があった。また中国という国でどれだけ自分の知識が通用するのかを知りたかった。

中国では河北医科大学を代表する多くの先生方が我々を温かく迎えてくださった。臨床実習開始前には、河北医科大学口腔医院において歓迎セレモニーが開催された。会場には“熱烈歓迎松本歯科大学”の横断幕が掲げられ、李增寧党委書記から歓迎のご挨拶をいただいた。本学からは宇田川信之歯学部長が永年にわたる両校の交流について触れ、今回の研修受け入れに対して謝辞を述べた。

臨床研修では、口腔外科、保存科、口腔粘膜科、補綴科、矯正科といったさまざまな科を回ったが、見るものすべてが私の心を震わせた。口腔外科の手術室では、

ヒューマンエラーを最小限に抑えることを目指した歯科医師ロボットによる全自動インプラント手術を見学した。歯周病科では、ペリオスコーピーシステム、2波長レーザーを見学し、どの科でも担当の先生方が丁寧に説明してくださり、歯科医療の進歩を肌で感じる事ができた。

カリキュラムには、河北医科大学の学生6人と交流する機会もあった。国籍は違えども同じ歯科医療に携わる学生同士、臨床実習と試験勉強に追われている日々の苦勞を共有した。

中国化学習では、河北博物院や正定の臨濟寺を見学した。北京の街並みや夜景、歴史的建造物などを見ることができ、中国の古い歴史は今なお現代の中国人の人々に受け継がれているのだと感じた。

最新の医療機器、豪勢な食事、歴史的遺産や街並み、それら一つ一つがとても大きな刺激であり、私自身が思う歯科医師の在り方や学びの姿勢、そして中国という国について改めて考え直すきっかけとなった。交流会の宴では、私が全員を代表し、感謝の気持ちを込めて「ハナミズキ」を歌い、河北医科大学と松本歯科大学の友好関係が「百年続きますように」と願った。

今回の臨床実習プログラムに参加できたことを心から誇りに思い、より深く歯科医療を学びたいという意欲に駆り立てられている。この経験を糧にいつそ研鑽を積んでいきたい。



臨床実習プログラムに参加した学生たち

Campus Today 第476号 (令和5年9月発行)

## 第35回松濤祭 学生たちの笑顔あふれる

さわやかな秋晴れのキャンパスで

子供から大人まで多くの方がイベントを満喫

第35回大学祭「<sup>しょうとう</sup>松濤祭」が10月7日(土)、4年ぶりに開かれた。講義館駐車場を会場にして、学生による飲食や体験の模擬店が多数出店、会場中央の特設ステージでは軽音楽部のバンドや、お笑いタレントのムーディ勝山さんからスペシャルゲストのステージも次々と繰り広げられ、子供から大人まで多くの人でにぎわった。



特設ステージのパフォーマンスを楽しむ学生たち

大学祭は通常、春に観桜会と同時開催しているが、新型コロナウイルスの影響で中止が続いたため、観桜会とは別にして4年ぶりに開催した。テーマは、本学が2022年に創立50周年の節目を迎えたことや、4年にわたって新型コロナウイルスに苦しめられたことからの新たな一歩になることを願って、「50+1」とした。準備や運営は、第1～5学年の十数人でつくる実行委員会のメンバーを核に、メンバー以外の歯学部生や衛生学院生も積極的に協力し、全員が一丸となって取り組んだ。

学生たちの模擬店は、歯学部第1学年、衛生学院、部活の三つのグループごと、会場の周囲を囲むように設置したカラフルなテントの下で運営された。唐揚げやフライドポテト、フランクフルトなどの飲食系の模擬店のほか、テニス部によるストラックアウトや、軽音楽部による落書きせんべい、衛生学院生による歯科材料を使った指のかたどりなどの体験型の模擬店もあり、多くの人でにぎわった。会場の一角には、陸上自衛隊や塩尻警察署の協力で、自衛隊車両や警察車両の展示コーナーも設けられ、子供連れの来場者らが興味深そうに乗ったり、説明を受けたりしていた。

スペシャルゲストの一人で、お笑いタレントのムーディ勝山さんは、トレードマークの白のタキシード姿で特設ステージに現れ、「朝6時に白タキシードで東京から参りました」と切り出し、持ち前の歌ネタ「右から来たものを左へ受け流すの歌」を披露、会場を沸かせた。

実行委員会委員長で、第5学年の伊藤公平君は「地域の皆さんにも楽しんでいただき、松本歯科大のことをより深く知っていただく機会になったらうれしいです」と話していた。

閉会式では、笑顔をテーマに事前公募した写真作品を会場内に展示し、来場者の投票で入賞者を決める「スマイルフォトコンテスト」の表彰式も行われた。

あいさつに立った宇田川信之歯学部長は「天気にも恵まれ、最後に軽音楽部の素晴らしい演奏もあり、よい松濤祭でした。短い準備期間でしたが、多くの方の協力のおかげで開催できたことを忘れず、次回開催に向けてまた頑張りましょう」と呼び掛け、祭を締めくくった。



地域の人と交流した指模型のコーナー



会場を盛り上げた軽音楽部のバンド

Campus Today 第 478 号 (令和 5 年 11 月発行)

## ■ 朝日大学歯学部 ■

### 2023 年度朝日大学公開講座・ 朝日大学病院創立 50 周年記念 市民公開講座

“病気を知り、備える—備えあれば患<sup>うれ</sup>いなし—”

2023 年 9 月 16 日に、朝日大学病院創立 50 周年を記念し、身近な病気に関する知識とその予防について学び生活に役立てていただけるよう、朝日大学公開講座・朝日大学病院創立 50 周年記念市民公開講座を開催しました。



日下義章病院長による挨拶

#### 糖尿病を知り、備える

佐々木教授は、糖尿病の歴史や日本での現状、予防方法や早期発見のポイントなどについて詳しく解説しました。

予防方法としては、炭水化物の過食を避けること、少量多回の食事、運動をすることなどを紹介しました。糖尿病の早期発見のためには、トイレの回数や体重の変化、合併症の兆候に注意することが大切であり、定期的な検診の受診を推奨しました。

副病院長、糖尿病・  
内分泌内科教授  
佐々木 昭彦 氏

#### 感染症を知り、備える

江原教授は、日本での主要な死亡原因として、がんや心疾患はもちろん、感染症も上位に位置していることを説明しました。

感染症の発症は、病原体の感染力と体の抵抗力のバランスによって大きく影響され、感染症への正しい知識が必要であると解説しました。また感染症の予防について、ワクチンの接種、そして免疫（抵抗力）の維持が非常に重要であると強調しました。

副病院長、泌尿器科教授  
江原 英俊 氏

#### 心臓病を知り、備える

瀬川教授は、心臓の役割や心不全の原因、予防方法について詳しく解説しました。

心不全の予防や対策として、適度な運動の継続の重要性を強調されました。特に運動療法の効果について詳しく語り、心臓の健康を維持し、心不全のリスクを低減するための方法として、有酸素運動やレジスタンス運動が効果的であると示しました。

副病院長、循環器内科教授  
瀬川 知則 氏

#### ロコモを知り、備える

今泉教授は、運動器症候群、通称「ロコモティブシンドローム（ロコモ）」に関する予防方法について詳しく解説しました。

予防方法としては、筋力を向上させる運動やバランス感覚を養う運動を推奨しました。特に、スクワットや片足立ちを中心としたロコモーショントレーニングが効果的

整形外科教授  
今泉 佳宣 氏

だと述べ、食事の面では、カルシウムや良質なたんぱく質の摂取の重要性を強調しました。

### がんを知り、備える

坂元教授は、ピロリ菌の除菌、及び発がんに関連したウイルスに対するワクチン接種と抗ウイルス薬の投与によるがん発症リスクの低減対策など、がんに関する基本知識について詳しく説明しました。

また健康的な生活習慣と、早期発見・早期治療に基づくがん予防の推進の重要性を強調しました。さらに、がん免疫療法の仕組みについて詳しく解説しました。



消化器内科教授  
坂元 直行 氏

### 脳を知り、備える

石澤教授は、人間の脳の基本的な構造と機能について詳しく解説し、脳の健康の重要性を強調しました。

特に認知症や脳卒中などの脳関連の疾患の予防の大切さに焦点を当てました。早期の予防や適切な対応が極めて重要であることを示し、生活習慣の見直しを通じて、これらのリスクを軽減する方法を紹介しました。



脳神経外科教授  
石澤 錠二 氏

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第148号

(令和5年11月発行)

## 災害時の歯科保健医療 救護活動に関する協定を締結

### 災害時の歯科医療連携強化

2023年8月24日に、岐阜県歯科医師会館（岐阜市加納城南通り）において、朝日大学医科歯科医療センターと公益社団法人岐阜県歯科医師会との災害時の歯科保健医療救護活動に関する協定書の締結式を開催しました。

本協定は、大規模災害に備えて本センターと県歯科医師会が連携し、災害時の歯科保健医療の提供を円滑にすることを目的に協定を締結しました。

本センターは、引き続き地域の中核医療機関として、歯科保健医療救護活動を続けて参ります。



阿部義和岐阜県歯科医師会会長(左)と  
藤原周医科歯科医療センター長(右)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第148号

(令和5年11月発行)

## 優秀論文賞に輝く

### 治療・考察が評価される

2023年7月8日、9日に開催された「第44回日本歯内療法学会学術大会」において、歯科保存学分野歯内療法学の長谷川智哉助教が筆頭著者として執筆した論文「侵襲性歯頸部吸収症例に対する治療方針の考察」が、優秀論文賞を受賞しました。

この論文は、治療方針の意思決定において検査・診断だけでなく、歯の長期予後まで深く考察したものであり、治療に際しての優れた成果を示す症例報告となっています。



指導した河野哲教授(左)と長谷川智哉助教(右)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第148号

(令和5年11月発行)

## 愛知学院大学歯学部

## 臨床教育研究棟 落成式・内覧会を開催しました

末盛キャンパスに新校舎「臨床教育研究棟」が完成し、2023年9月27日(水)に『落成式』を執り行いまし



た。落成式後には、高等学校関係者や予備校関係者を対象とした『内覧会』を実施しました。

医療系図書室「月見坂ライブラリー」、グループ学習・自習の場となる「セミナー室・自習室」など、更に拡充・充実した学修環境をご覧いただきました。新校舎「臨床教育研究棟」は、臨床系講座の教員と臨床実習中の5・6年生が共存し、附属病院とも上空通路でつながっていることから、歯科医療の最前線と一体化したキャンパスといえます。本学歯学部は、これからも中部地区の歯科医療をリードする人材養成に努めてまいります。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和5年9月掲載）

## 「令和5年度第61回解剖慰霊祭 及び返骨式」が執り行われました

令和5年10月6日(金)、楠元キャンパスにて、令和5年度第61回解剖慰霊祭がしめやかに執り行われまし



た。

ご遺族、ご来賓及び教職員・学生が参列し、歯学の発展のためご遺体を本学における解剖に献体された故人の御霊に対し、ご冥福をお祈りしました。

続いて、解剖学講座 池田やよい主任教授からご遺族の元にご遺骨をお返ししました。

愛知学院大学歯学部ホームページ（令和5年10月掲載）

## 歯学部・薬学部・短期大学部・ 歯科技工専門学校の合同 IPE が 行われました

2023年11月15日(水)、医療系の学部学科が複数設置されている本学の特色を活かし、多職種連携教育（IPE：Interprofessional Education）として合同授業を行いました。

歯学部歯学科5年生、薬学部医療薬学科5年生、短期大学部歯科衛生学科3年生、歯科技工専門学校学生、合計384名が参加し、68グループに分かれてPBL（Problem Based Learning：問題基盤型学習）による課題の討論や発表を行いました。

本プログラムは、多職種連携医療をイメージしており、医療関連職として他職種の意見を尊重、協力し、よりよい解決法を見いだすための知識・技能・態度を習得することを目的に行われています。模擬患者の資料を元に、自職種でできること、他職種に依頼や質問すること等をグループ内で議論しながら、最終的にどのように患者に向き合っていくかを全体プロダクトとしてまとめ、全体発表を行いました。

実施後のアンケートでは、8割を超える学生から本IPEが有意義であったと回答がありました。「違った角度からの意見が面白かった」「他学部の授業や実習について教えてもらった」「他学部の同世代の学生と議論しプロダクトを作成することは有意義だった」などの感想が寄せられました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和5年11月掲載）

## 「歯学部ホームカミングデー」が 開催されました

2023年11月19日(日)に臨床教育研究棟にて歯学部ホームカミングデーが開催されました。当日は250名を超える同窓生にお集まりいただきました。新しいキャンパスに驚く姿や、旧友や恩師との再会に笑顔がこぼれる姿が見られました。当日は、受付で管弦楽団がお出迎えさせていただき、東京大学総合研究博物館の海部陽介教授による特別講演「人間らしさとは何か～人類進化学から考える3つの側面～」や、お子様向けの体験実習「削ってみよう! 詰めてみよう!」、同窓会OBによる生演奏や歯学部長と在学生による大学紹介、個別相談。また、企業展示もあり、様々なイベントが開催されました。

来場された同窓生からは「海部陽介教授の講演大変興味のある内容で良かったです。出迎えの管弦楽も良かったです。」「現役の4年生の生の声が聴けたのは、大変参考になりました。」「同窓生っていいなと思いました。」などの感想がありました。



愛知学院大学歯学部ホームページ (令和5年11月掲載)

## 大阪歯科大学

### 立命館大学と 学術交流協定を締結しました

このほど、立命館大学と大阪歯科大学は学術交流協定



立命館大学・徳田昭雄副学長、大阪歯科大学・川添堯彬学長  
後列左二人目から

立命館大学・肥塚 浩 医療介護経営研究センター長  
大阪歯科大学・馬場俊輔 TRIMI 機構長、光山 誠 講師(非常勤)

に署名し、8月7日、楠葉キャンパスで協定式を行いました。この協定は、教員・研究者の交流や、次世代の医療及び介護に係る製品開発に関する共同研究などを推進するのが目的。立命館大学の医療介護経営研究センター(MLTCM)と本学の医療イノベーション研究推進機構(TRIMI)事業化研究推進センターが中心となり取り組みを進めることとしています。

協定式には、立命館大学から徳田昭雄副学長、肥塚浩 MLTCM センター長が、本学からは川添堯彬理事長・学長、馬場俊輔 TRIMI 機構長、そして MLTCM 客員研究員で本学講師(非常勤)の光山誠氏が出席しました。

この中で、川添理事長・学長は、多職種連携の将来の医療界をにらみ、医療サービス人材を養成すべく、医療系総合大学化を目指して来年度に看護学部(仮称)を開設する構想などを紹介。今回の協力の核となる TRIMI 事業化研究推進センターについては、医薬品・医療機器開発を重点的に支援しており、「この協定によって立命館大学様の研究シーズを医療機器開発へと結びつけていくことができれば」と期待を示しました。

徳田副学長は、2019年から茨木キャンパスを拠点に、医療や介護現場における課題解決型の研究を展開している MLTCM について述べ、今般の協定を契機として「口腔と栄養に関わる分野にも取り組んでまいり所存です」と挨拶されました。



続いて行われた意見交換会では、今後の具体的な取組内容について検討。両大学の共通の提携先である公益社団法人大阪介護老人保健施設協会とも連携して、フレイル予防などを目的としたコンソーシアムを結成し、産学官連携や起業支援を推進する提案が出され、実施に向けて定期的に討議していくことになりました。

大阪歯科大学ホームページ (2023年8月掲載)

## 次期大阪歯科大学理事長・学長に 川添 堯彬氏が再任されました

学校法人大阪歯科大学では、学長並びに理事長の任期満了に伴う学内選考の結果、川添堯彬 現理事長・学長を再任いたしました。任期は次のとおりです。

■学長任期：2023（令和5）年10月1日～2027（令和9）年9月30日

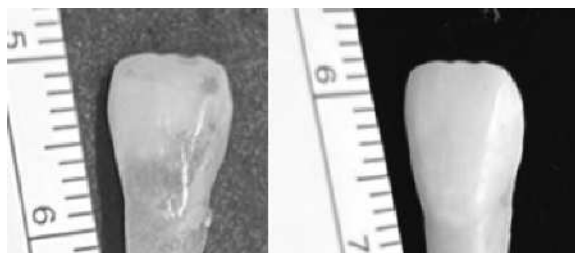
■理事長任期：2023（令和5）年10月1日～2027（令和9）年9月30日

※私立学校法改正に基づく寄附行為の変更が認可されたときは、理事長の任期は変わる可能性があります。



大阪歯科大学ホームページ (2023年9月掲載)

## 橋本典也教授らの研究グループが 新たな審美修復技術を開発しました



Er:YAG レーザー成膜法を用いて審美修復されたエナメル質  
(左：修復前、右：修復後)

このほど、近畿大学名誉教授で大阪歯科大学客員教授

の本津茂樹先生と、本学歯学部歯科理工学講座の橋本典也主任教授らの研究グループが、株式会社モリタ製作所（京都市）と共同で、エナメル質を治しながら歯を白くする技術を開発しました。

これは、歯科治療で一般的に使用されるエルビウムヤグ (Er:YAG) レーザーを用いて、歯の主成分であるハイドロキシアパタイトを直接歯の表面に付着させることで、エナメル質を修復しながら歯を白くするという技術。

現在、審美歯科の治療法として主流の、①研磨剤によるクリーニング、②漂白剤によるホワイトニング、③エナメル質の層を削り白い詰め物を貼り付けるラミネートベニアは、いずれもエナメル質にダメージを与えるなどマイナス面が懸念されますが、この新技術では歯と同じ成分のハイドロキシアパタイトを用いることにより、アレルギー反応を起こさない、安全な治療法としての期待が高まります。

今回の新しい審美修復技術の開発について、「すでに、Er:YAG レーザーをお持ちの歯科医院も多く、Er:YAG レーザー先端ユニットの開発も終わっている。広く普及する治療技術となるのでは」と展望を話してくれた橋本先生。

今後は、歯科医師会や歯科機器メーカーの協力を得て、臨床研究及び治験を実施できる体制を整備し、実用化をめざすこととしています。



橋本典也主任教授

大阪歯科大学ホームページ (2023年9月掲載)

## 歯学部6年生が人命救助 消防署から感謝状

適切な救命活動を行い傷病者の救護に貢献したとして、大阪歯科大学歯学部6年の青山史佳さんに先月、大阪市北消防署から感謝状が贈られました。

8月27日18時33分ごろ、帰宅途中の青山さんは大阪メトロ御堂筋線「梅田駅」の南改札口付近（Whityうめだ地下街）で、男性が倒れているのに遭遇しました。



6年生 青山 史佳さん(中央)、川添学長(左)、百田義弘・学生部長

咄嗟に駆け寄ると、肉付きが良く30代とみられる男性は呼吸がなく、目も開いていない状態でした。「街中なので、救急の知識を持っているのは自分しかないかも。とりあえずなんとかしないと」

その時、偶然近くを青山さんと同世代と思われる看護師4人が通りかかり、救護に加わってくれました。呼吸と脈を確認したうえで、青山さんらは交代で心臓マッサージを開始。間もなく警備員がAEDを持って駆けつけました。男性に電極パッドをはると「電気ショックが必要です」との音声。前に押し寄せる見物人に、青山さんは大声で「感電するから離れてください」と注意。心停止の男性に電気ショックを与えました。1回では戻らず、再び心臓マッサージ。そして2回目のショック。男性は3回目で漸く覚醒しました。

「息はできますか。喋れますか」。声かけを続けるうち、青山さんは、肥満気味の男性が、喉が詰まり息ができていないことに気づきます。本学の救急蘇生実習で学んだ、下顎を上げると息ができる「気道確保」を思い出し、青山さんは看護師さんらに「それをやりましょう」と提案。気道確保を行ったのち、男性は呼吸ができるようになりました。

救急隊が到着した時、男性は「病院へは行かないよ。大丈夫だから」と話せるまでに回復。救急隊もビックリされていたそうです。

倒れている男性の発見から救急隊到着まで約7分。「意識戻ってくれ！消防隊早く来て」という気持ちで必死でしたが、看護師さんとの協働で「落ち着いて行動できて良かった」と振り返った青山さん。人生で最も長い



7分間でした。

「ここまで救急隊が手を施さなくていいレベルまで、一般の方が蘇生できる例はほとんどない。その場で助けた人が全員医療系だったからこそ。適切な処置をありがとうございました」。感謝状贈呈の際、消防署からこう労われた青山さん。川添堯彬理事長・学長も、傷病者を救護するという医療人の精神を、勇気をもって示してくれた青山さんに最大限の賛辞を送っていました。

大阪歯科大学ホームページ (2023年10月掲載)

## ■ 福岡歯科大学 ■

### 福岡市民の健康を 歯と口から守る集いに参加

令和5年6月4日、福岡県歯科医師会館において「第45回福岡市民の健康を歯と口から守る集い」(福岡市歯科医師会主催)が3年ぶりに開催となり、歯を含めたお口と全身の健康についての啓発イベントが実施されました。本学から歯科医師・歯科衛生士が参加し、「歯と口とからだの健康よろず相談」、「口腔外科・口腔がん相談」のコーナーでは参加者のお口に関する悩みに丁寧に回答しました。

また、今年度はソラリアプラザ1階のイベントスペースにも会場が設けられ、口臭予防などお口の健康に関する情報をポスターで紹介しました。



相談を受けている様子

福岡学園広報誌 Vol.31 No.3 (第119号)  
(令和5年7月発行)

### 福岡市立高等学校(4校)と 連携協定を締結

福岡歯科大学は、同法人の福岡看護大学、福岡医療短期大学とともに、大学教育・高等学校教育の活性化等を目的として、福岡市立高等学校である福翔高等学校・博

多工業高等学校・福岡女子高等学校・福岡西陵高等学校の4校と「高大連携に関する協定」を締結しました。この協定は、相互の教育に係る交流・連携を通じて、高大連携に係る取り組みの実質化を図ることを目的としています。

令和5年6月13日、福岡歯科大学において執り行われた調印式には、福翔高等学校より藤 菊英校長、博多工業高等学校より福岡 哲朗校長、福岡女子高等学校より大洲 隆一郎校長、福岡西陵高等学校より佐伯 哲郎校長が出席され、協定書に署名いただきました。

今後、各高等学校と連携した取り組みが期待されます。



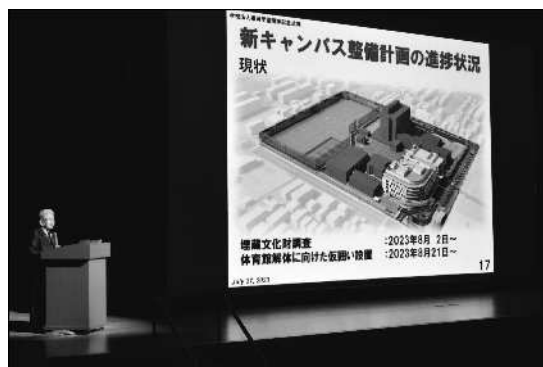
調印式の様子

福岡学園広報誌 Vol.31 No.3 (第 119 号)  
(令和 5 年 7 月発行)

## 学校法人福岡学園 開学記念式典を 挙行

令和5年7月27日、50周年記念講堂において、学校法人福岡学園開学記念式典が執り行われました。

式典には、水田理事長をはじめ、学内外の関係者約200名が出席し、水田理事長の挨拶に続き、永年勤続者表彰、福岡歯科大学・福岡医療短期大学 最優秀教育改善賞表彰、福岡歯科大学・福岡看護大学特待生表彰、福岡医療短期大学 特別奨学生表彰、研究優秀賞表彰が行われました。



式典の様子

福岡学園広報誌 Vol.31 No.4 (第 120 号)  
(令和 5 年 10 月発行)

## 学校法人福岡学園の役員・評議員を 改選 水田祥代氏を理事長に再任

任期満了に伴う本学園の理事・監事・評議員の改選が令和5年7月18日および令和5年8月3日に開催された理事会、評議員会で行われ、理事11名、監事2名、評議員25名が決まりました。また、理事長には水田祥代氏が、常務理事には田口智章氏が選任されました。

なお今期より新たに新理事・評議員として江里能成氏、新監事として工藤重之氏が選任されました。



水田祥代 理事長

福岡学園広報誌 Vol.31 No.4 (第 120 号)  
(令和 5 年 10 月発行)

## 協会役員・部会・委員会名簿

## 一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	羽村章	日本歯科大学生命歯学部特任教授
副会長	大友克之	朝日大学学長
副会長	藤井一維	日本歯科大学学長
副会長	一戸達也	東京歯科大学学長
専務理事	櫻井孝	神奈川歯科大学学長
常務理事	高橋裕	福岡歯科大学学長
常務理事	宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
常務理事	福本雅彦	日本大学松戸歯学部長
理事	三浦廣行	岩手医科大学副学長
理事	川添堯彬	大阪歯科大学理事長・学長
理事	大久保力廣	鶴見大学歯学部長
理事	古市保志	北海道医療大学歯学部長
理事	宮田淳	明海大学理事長
理事	本田雅規	愛知学院大学歯学部長
理事	馬場一美	昭和大学歯学部長
理事	清浦有祐	奥羽大学学長
理事	飯沼利光	日本大学歯学部長
監事	牧村正治	日本大学名誉教授
監事	高橋偉茂	朝日大学内部監査室長

(R6.3.31 現在)

## 教育・研究部会

部会長：宇田川 信之  
日本私立歯科大学協会常務理事  
松本歯科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
岸光男	岩手医科大学歯学部教務委員長
金秀樹	奥羽大学歯学部学生部長
坂英樹	明海大学歯学部教務部長
山本仁	東京歯科大学副学長
馬場一美	昭和大学歯学部部長
林誠	日本大学歯学部学務担当
金田隆	日本大学松戸歯学部学務担当
菊池憲一郎	日本歯科大学生命歯学部部長
藤井一維	日本歯科大学学長
槻木恵一	神奈川歯科大学副学長
山越康雄	鶴見大学歯学部教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部部長
玉置幸道	朝日大学歯学部部長
本田雅規	愛知学院大学歯学部部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部部長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R6.3.31 現在)

## 病院部会

部会長：高橋 裕  
日本私立歯科大学協会常務理事  
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
舞田健夫	北海道医療大学病院副病院長
山田浩之	岩手医科大学附属内丸メデイカルセンター歯科医療センター長
大野敬	奥羽大学歯学部附属病院長
横瀬敏志	明海大学歯学部病院長
山下秀一郎	東京歯科大学水道橋病院長
檜宏太郎	昭和大学歯科病院長
佐藤秀一	日本大学歯学部付属歯科病院長
平山聡司	日本大学松戸歯学部付属病院長
内川喜盛	日本歯科大学附属病院長
戸谷収二	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
小川匠	鶴見大学歯学部附属病院長
樋口大輔	松本歯科大学病院長
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
三谷章雄	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学附属病院長・理事
坂上竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R6.3.31 現在)

## 経営部会

部会長：大友 克之  
日本私立歯科大学協会副会長  
朝日大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
山本和博	岩手医科大学事務局長
車田文雄	奥羽大学事務局長
中山浩之	明海大学事務局長
加藤靖明	東京歯科大学千葉歯科医療センター参与
倉口秀美	昭和大学学事部長
齊藤政之	日本大学歯学部事務局長
谷龍樹	日本大学松戸歯学部事務局長
谷村龍三	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聡	朝日大学事務局長
日比茂久	愛知学院大学歯学部次長
中尾昌彦	大阪歯科大学経理部長
石橋慶憲	福岡歯科大学事務局長

(R6.3.31 現在)

## 広報委員会

委員長：福本 雅彦  
日本私立歯科大学協会常務理事  
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤旭	岩手医科大学歯学部教務課長
三浦孝英	奥羽大学病院事務部庶務課長
高山裕子	明海大学歯学部庶務課長
橋本貞充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉岡由貴	昭和大学総務部総務課係員
山崎和彦	日本大学歯学部庶務課長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
北見公一	日本歯科大学生命歯学部用度営繕部長
本宮由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
櫻井一義	神奈川歯科大学総務部総務課長
平野司	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
纈纈力	朝日大学入試広報部入試広報課長
真新薫	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R6.3.31 現在)

## 受験生確保対策委員会

委員長：福本 雅彦  
日本私立歯科大学協会常務理事  
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
渡邊義典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
井上信之	昭和大学入学支援課長
中澤謙司	日本大学歯学部教務課長
村山賢是	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古大介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐謙介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部・学生部副部長
小牧基浩	神奈川歯科大学教授
西村勇気	鶴見大学入試センター事務部入試課長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
真新薫	愛知学院大学歯学部事務長
野崎中成	大阪歯科大学アドミッションセンター長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R6.3.31 現在)

## 研修委員会

委員長：宇田川 信之  
日本私立歯科大学協会常務理事  
松本歯科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤旭	岩手医科大学歯学部教務課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
田口円裕	東京歯科大学法人事務局事務部長
磯飛雄一	昭和大学人事課長
佐々木孝全	日本大学歯学部事務長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
北見公一	日本歯科大学生命歯学部用度営繕部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
藤原剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
高嶋基則	愛知学院大学歯学部事務長
児玉孝	大阪歯科大学法人事務局長
古村南夫	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R6.3.31 現在)



## 歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也  
日本私立歯科大学協会副会長  
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
舞田 健夫	北海道医療大学病院副院長
佐藤 健一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山森 徹雄	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
平田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
武市 収	日本大学歯学部卒業教育担当
野本 たかと	日本大学松戸歯学部卒業教育担当
小川 智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二宮 一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大橋 桂	神奈川歯科大学附属病院総医局長・研修管理委員長
山口 博康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
藤原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
小島 規永	愛知学院大学歯学部講師
百田 義弘	大阪歯科大学学生部長
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R6.3.31 現在)

## 診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也  
日本私立歯科大学協会副会長  
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長澤 敏行	北海道医療大学歯学部教授
三浦 廣行	岩手医科大学副学長
鈴木 史彦	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
村松 敬	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
佐藤 秀一	日本大学歯学部付属歯科病院長
内田 貴之	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
内川 喜盛	日本歯科大学附属病院長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
山口 徹太郎	神奈川歯科大学附属病院副院長・教授
山本 雄嗣	鶴見大学歯学部教授
亀山 敦史	松本歯科大学教授
河野 哲	朝日大学歯学部臨床実習センター長
木本 統	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本 一世	大阪歯科大学教務部長・理事
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R6.3.31 現在)

## 附属病院感染対策協議会

議長：高橋 裕  
日本私立歯科大学協会常務理事  
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
永易 裕樹	北海道医療大学歯学部教授
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
小嶋 忠之	奥羽大学歯学部講師
星野 倫範	明海大学歯学部医療安全執行部長
松坂 賢一	東京歯科大学水道橋病院臨床検査部長
木庭 新治	昭和大学歯学部教授
米原 啓之	日本大学歯学部教授
山口 秀紀	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
石垣 佳希	日本歯科大学生命歯学部教授
水谷 太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授
沢井 奈津子	神奈川歯科大学教育企画部准教授
長谷川 雅子	鶴見大学歯学部講師
栗原 祐史	松本歯科大学教授
安田 順一	朝日大学歯学部准教授
宮地 斉	愛知学院大学歯学部准教授
松本 和浩	大阪歯科大学講師
橋本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R6.3.31 現在)

## 賛助会員企業

紹

介

コ

ー

ナ

ー



## ササキ株式会社

「人々の健康を担う歯科医療を全力で誠実に支えます」

ササキ株式会社は、大正7年の創業以来、歯科医療機器・歯科材料の販売を中心に、治療や商品の情報提供などさまざまなサービスで歯科医療業界をサポートしてまいりました。

人々の健康維持と向上に夢を抱き、真摯に取り組まれている皆さま方を誠心誠意、お手伝いさせていただくことは我々の大切な使命です。

創業から100年を超えて歯科医療業界の一端を担い、しっかりと支えていくこと、人と人の絆を大切に、豊かに広げていくことを目指すササキの精神はこれからも続いていきます。弊社では、信頼される組織づくりのため、世界標準のマネジメントシステム「ISO9001:2015」の認証を取得。人材や情報などの必要な資源を整備して、常にお客様の満足度向上につながる取り組みを継続してまいります。

今後も更なるご満足をいただけるように努力を重ねてまいります。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。



社屋外観

代表取締役 佐々木 伸五

## 事業内容

歯科医療機械・器具・材料・薬品の販売  
 歯科医院の開業・移転等のサポート  
 福祉機器のレンタル・販売

所在地

〒440-8518

愛知県豊橋市八町通5丁目7番地

TEL 0532-55-6811

FAX 0532-55-5658

<https://www.sasaki-kk.co.jp>

## 株式会社メルリックス

私どもは25年前、医学部・歯学部専門の予備校として渋谷・桜丘町の地に校舎を構えました。これまでの25年間に未来ある2,095名の生徒達が歯学部合格して羽ばたいて行きました。現在は渋谷校の他に名古屋校、大阪校、そしてこの春からは池袋校、麹町校、京都校をオープンし、ますます多くの未来ある優秀な若者を医療界に送り込んで行く所存です。

私どもの予備校は基礎と実践演習を大事にしたカリキュラムと、その生徒さんが合格するまで決してあきらめない面倒見の良さを特長としており、今後も歯科医療の世界に一人でも多くの優秀な若者を送り込んでまいりたいと思います。

今後、50代から60代の歯科医師が引退していく中で、超高齢社会において歯科医師が不足する時代はすぐそこまで来ております。日本の歯科医療の未来を背負って立つ若者に、歯科医師に必要な生涯勉強の姿勢を10代のうちから形成していただけますよう指導に一層力を入れてまいります。



令和5年7月開催の歯学部合同説明会の様子

代表取締役 佐藤 正憲

## 事業内容

医学部、歯学部合格のための予備校運営。医学部、歯学部合格に向けての受験情報発信、セミナー開催。受験情報誌受験攻略ガイドの作成。歯学部学生に対する進級対策、学習サポート。

所在地

〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町6-2

TEL 03-5428-2141

FAX 03-5428-2161

<https://melurix.co.jp>

## 一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿

### ■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部  
 岩手医科大学歯学部  
 奥羽大学歯学部  
 明海大学歯学部  
 東京歯科大学  
 昭和大学歯学部  
 日本大学歯学部  
 日本大学松戸歯学部  
 日本歯科大学生命歯学部  
 日本歯科大学新潟生命歯学部  
 神奈川歯科大学  
 鶴見大学歯学部  
 松本歯科大学  
 朝日大学歯学部  
 愛知学院大学歯学部  
 大阪歯科大学  
 福岡歯科大学

### ■賛助会員■

(株) シ ラ ネ  
 (株) ヨ シ ダ  
 デンツプライシロナ(株)  
 長田電機工業(株)  
 (株) 東京技研  
 (株) ジーシー  
 吉田精工(株)  
 (株) 八 甕  
 サ サ キ(株)  
 (株) モ リ タ  
 (株) ニ ッ シ ン  
 (株) 松 風  
 (株) モ リ タ 製 作 所  
 日本歯科薬品(株)  
 (株) 玉井歯科商店  
 (株) A D I . G  
 石福金属興業(株)

沖 歯 科 要 材 (株)  
 (株) J M O r t h o  
 (株) トクヤマデンタル  
 (株) ミ ク ロ ン  
 (株) モリタ東京製作所  
 (株) Y D M  
 サンメディカル(株)  
 (株) 田中歯科器械店  
 医歯薬出版(株)  
 (株) ブイ・エス・シー  
 (株) E P A R K  
 メ デ イ ア (株)  
 (株) メルリックス  
 大榮歯科産業(株)  
 ネオ製薬工業(株)

### ◇編集後記◇

協会広報第87号をお届けします。  
 今号の巻頭言は、本年4月1日から明海大学歯学部長にご就任される予定の  
 坂 英樹教授からいただきました。  
 この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。  
 今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意  
 見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願いい  
 たします。

広報委員長（協会常務理事）  
 福本雅彦

令和6年3月31日発行

## 日本私立歯科大学協会広報 第87号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 羽村 章  
 〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階  
 電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069  
 協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株)日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白敷美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化（初代専務理事 宮田侑先生による）